

資料 1 地域協議会向けアンケート調査票

地域協議会の運営状況についてのアンケート

貴協議会名、アンケート記入者名、アンケート記入者の連絡先をご記入ください

地域協議会名	
アンケート記入者名	
アンケート記入者の連絡先	電話番号
	メールアドレス

- このアンケート調査は、林野庁が実施する「森林・山村多面的機能発揮対策事業」において、活動組織への支援・指導を行う地域協議会の皆様を対象に、各種の支援活動等の状況や運営上の課題等をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様のご参考にしていただくことを目的としています。ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。
- 本アンケート調査は林野庁から委託を受け、(公財)日本生態系協会が実施しています。
- 本アンケート調査は、貴協議会における活動組織の支援・指導に関する取組の全体像を把握されているご担当者様にご記入をお願いいたします。
- 皆様からのご回答は、本調査の目的以外に使用することはありません。
- アンケート調査票は、本紙を含め 34 ページ (全 39 問) です。
- 選択式の質問では、当てはまる選択肢のチェック欄 (□) にチェック (☑) をお願いいたします。
- ご記入後、**令和 2 年 9 月 7 日 (月)** までに同封の返信用封筒または E メールにて、本アンケート調査票をご返送いただきますようお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会 (担当: 小川、亀田、井上)

住 所: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話: 03-5951-0244

Eメール: shinrin2020@ecosys.or.jp

調査票ダウンロードサイト: <http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>

Q 1 | 貴協議会の担当職員数

令和 2 年度現在、貴協議会において、本交付金（森林・山村多面的機能発揮対策交付金）を担当している職員の数（パート、アルバイト、臨時職員含む）を教えてください。

※本交付金に関する作業時間が少ない場合でも、担当者であれば、1名と数えるようにしてください。

該当の記入欄に整数で数字を記入してください。

常勤の担当職員	名	うち常時対応	名
繁忙期に応援を頼むことのできるおおよその職員数（常勤担当職員以外）			名

Q 2 | 貴協議会のご担当職員が所有する森林関係の資格

令和 2 年度現在、貴協議会において、本交付金を担当する職員の方がお持ちの森林関連の資格あるいは学歴について教えてください。複数の担当者がいらっしゃる場合には、どなたか 1 名でも資格をお持ちであれば、チェックをお願いします。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 森林インストラクター
- ② 技術士・技術士補（森林部門）
- ③ 林業普及指導員
- ④ 林業技士
- ⑤ 労働安全衛生法による特別教育の修了者（チェーンソー、刈払機等）
- ⑥ 樹木医
- ⑦ 森林・林業関係の大学院・大学・短大を卒業
- ⑧ 林業大学校・林業短期大学校を卒業
- ⑨ その他の森林・林業関連の資格（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑩ 特に森林・林業関係の資格・学歴は保有していない

「⑨その他の森林・林業関連の資格」に回答の協議会は、具体的な資格を教えてください

Q3 | 募集開始日

令和2年度において、貴協議会が本交付金の申請団体の募集を始めた日（募集開始日）を教えてください。なお、チラシ等を郵送した場合は、発送日をもって募集開始日としてください。

該当の記入欄に整数で数字を記入してください。

	年（西暦記入）	月	日
令和2年度（2020年度）	年	月	日

Q4 | 募集回数

令和2年度において、貴協議会が実施した本交付金の申請団体の募集回数を教えてください。なお、締め切りを決めていない場合は、「随時募集」にご回答ください。

当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

	1回	2回	3回	4回以上	随時募集
令和2年度（予定含む）	<input type="checkbox"/>				

Q5 | 募集に当たっての説明会の実施回数及び実施箇所数

令和2年度において、貴協議会が、本交付金の申請団体の募集をするに当たって実施した説明会の回数と、市町村単位での説明会の実施箇所数について教えてください。

該当の記入欄に整数で数字を記入してください。

	説明会実施回数	説明会実施箇所数
令和2年度	回	市区町村

令和 2 年度において、貴協議会が、本交付金の申請団体の募集を行うに当たり、具体的にどのような広報手段を用いたのかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 貴協議会の web サイト（Facebook 等の SNS を含む）での情報発信※
- ② 都道府県が管理する web サイト（Facebook 等の SNS を含む）での情報発信※
- ③ チラシ等の独自の広報用資料の作成
- ④ 都道府県の担当部局に広報を依頼
- ⑤ 市町村の担当部局に広報を依頼
- ⑥ 新規申請団体向けの説明会の開催
- ⑦ ボランティア団体向け施設での広報活動（チラシ設置等）
- ⑧ 都道府県や市町村を通じて実施に関する情報を提供
- ⑨ 本交付金取得経験のある団体への E メール、メーリングリストでの連絡
- ⑩ 本交付金取得経験のない団体への E メール、メーリングリストでの連絡
- ⑪ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑫ 特に新規団体募集のための広報活動は行っていない

※①あるいは②と回答の場合は、web サイトのアドレスを教えてください。

① 貴協議会	
② 都道府県	

「⑪その他」に回答の協議会は、具体的な広報手段を教えてください

貴協議会が本交付金の募集を行うに当たり、申請する団体が応募しやすくするために令和2年度に行っている取組について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 本交付金に関する説明会の開催
- ② 都道府県と協力・連携した指導
- ③ 市町村と協力・連携した指導
- ④ 林野庁作成資料の公開・配布
- ⑤ 申請書類作成に当たっての独自のQ&Aの作成・公開・配布
- ⑥ 申請書類記入例の作成・公開・配布
- ⑦ 申請書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- ⑧ 過年度と比べての変更点をまとめた資料の作成
- ⑨ 独自の募集用チラシ・パンフレットの作成・公開・配布
- ⑩ web サイトでの最新の申請書類の公開
- ⑪ モニタリング調査に関する説明会・講習会の開催
- ⑫ モニタリング調査のための手引き等の資料の作成
- ⑬ 安全講習の講師・指導者の紹介・斡旋
- ⑭ 森林ボランティア活動のための保険の斡旋・宣伝
- ⑮ 対象地の面積の算定支援
- ⑯ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑰ 特に申請を行いやくするための取組は行っていない

「⑯その他」に回答の協議会は、具体的な取組について教えてください

貴協議会・活動組織が行った取組で、都道府県または市町村による上乗せ支援を受けるのに、効果的と思われるまたは効果があったものについて、その内容を教えてください。

効果的と思われるまたは効果があった取組について、具体的な内容を教えてください

令和2年度において、貴協議会が実施した、活動組織に対する申請段階における指導・修正内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 申請書類の記載漏れ、記載ミスがあった
- ② 交付金対象外の活動が申請されていた
- ③ 適切な計画図（森林計画図や縮尺 1/5,000 以上の図面）が準備されていなかった
- ④ 面積の要件（0.1ha 以上）が満たされていなかった
- ⑤ 面積の算定が適切かどうか分からなかった
- ⑥ 活動対象地に関する協定書が適切な内容ではなかった
- ⑦ 森林経営計画の対象地が含まれていた
- ⑧ 交付金の使途に適切ではない内容があった
- ⑨ 添付された写真では対象森林の現況を把握することが困難であった
- ⑩ 活動スケジュールが適切ではなかった
- ⑪ 安全のために着用する装備が十分ではなかった
- ⑫ 保険に未加入ないしは、補償内容が不十分だった
- ⑬ 安全講習の内容が適切ではなかった
- ⑭ モニタリング調査の内容が適切かどうか分からなかった
- ⑮ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑯ 特に指導・修正は行っていない

「⑮その他」に回答の協議会は、具体的な指導・修正内容について教えてください

令和元年度と令和2年度に、貴協議会が、活動組織の連携や協力関係を促進させるために行った取組、支援策について教えてください。

※貴協議会の所轄管内以外の団体との連携や協力を行う場合も含めてご回答ください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 活動事例発表会等の開催
- ② 他の活動組織の活動現場を対象とした現地見学会の開催
- ③ 他の活動組織の活動現場で研修会の実施
- ④ 活動組織間の交流会（上記①発表会②現地見学会③研修会を除く）の実施
- ⑤ 活動事例集の発行
- ⑥ ホームページ、Facebook等のSNSや掲示板サービス等、webによる情報発信
- ⑦ 他の活動組織が行うイベント情報、通信誌等の共有
- ⑧ メールングリストを活用した情報共有
- ⑨ 活動組織間の連絡網の作成
- ⑩ 活動組織間での協力（資機材の融通や人員確保等）の斡旋
- ⑪ 市町村による活動組織や森林ボランティアの連携に向けた取組への協力
- ⑫ 地域外の活動組織や関係者に関する情報の提供
- ⑬ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑭ 特に活動組織間の連携や協力関係を促進するための取組は行っていない

「⑬その他」に回答の協議会は、具体的な取組、支援策について教えてください

Q16 | 活動組織への協力依頼

本交付金による活動を円滑に進めるため、現在交付金を取得している活動組織、あるいは本交付金の活動を終了した活動組織に、協力を依頼することがあるか教えてください。

協力を依頼したことがある場合には、具体的な内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 書類作成に対する協力依頼
- ② 具体的な作業に対する助言の協力依頼
- ③ 作業に対する人員面での協力依頼
- ④ 資機材貸与の協力依頼
- ⑤ 活動組織の安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習への協力依頼
- ⑥ 活動組織のモニタリング調査への協力依頼
- ⑦ 活動事例報告への協力依頼
- ⑧ 活動に関する現地見学会等への協力依頼
- ⑨ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑩ 特に協力の依頼は行っていない

「⑨その他」に回答の協議会は、具体的な協力依頼について教えてください

Q17 | 現地調査の実施回数と対象団体数

令和元年度に、貴協議会が、活動組織の取組について、現地調査（現地視察）を行った回数（おおよその日数）と、活動組織数を教えてください。なお、同日内に同じ活動組織の現地調査を行った場合は、複数の活動対象地を回った場合でも現地調査1回と数えてください。

該当の記入欄に整数で数字を記入してください。

現地調査ののべ回数	回	現地調査を行った日数	日
元年度の活動組織数	団体	左記のうち、調査した活動組織数	団体

令和元年度と令和2年度において、現地調査（現地視察）の際に行った確認や助言について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 作業の実施状況の確認
- ② 作業方法についての助言・相談対応
- ③ 作業時の安全対策の実施状況の確認
- ④ 作業時の安全対策についての助言・相談対応
- ⑤ 活動対象地の森林の状態の確認
- ⑥ 活動対象地の位置・面積・境界の確認（図面との照合等）
- ⑦ 本交付金で購入された資機材・物品の利用状況の確認
- ⑧ モニタリング調査の調査区（標準地）の設定状況の確認
- ⑨ モニタリング調査についての助言・相談対応
- ⑩ モニタリング調査の調査結果の妥当性の確認
- ⑪ 活動記録や金銭出納簿等の事務書類の記録状況の確認
- ⑫ 事務書類の作成について助言・相談対応
- ⑬ 活動対象地周辺への影響の有無の確認
- ⑭ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑮ 特に意識して確認していることはない

「⑭その他」に回答の協議会は、具体的な確認・助言内容について教えてください

令和元年度と令和2年度において、交付金の採択決定以降、実績報告書提出前の段階で活動組織が実際に活動を行うに当たり、貴協議会が受けた相談内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 作業を行う人数を確保できない
- ② 作業を行うのに必要な資機材を用意できない
- ③ 活動記録や金銭出納簿等、必要な事務書類の書き方が分からない
- ④ 活動記録上、必要な写真の撮り忘れがあった
- ⑤ 作業中に参加者にけが人があった
- ⑥ 活動対象地で自然災害による被害が生じた
- ⑦ 活動対象地で鳥獣による被害が生じた
- ⑧ 作業により周辺に物損事故があった（電線へのかかり木等）
- ⑨ モニタリング調査について※
- ⑩ 具体的に購入可能な資機材について
- ⑪ 活動参加者の募集について
- ⑫ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑬ 特に相談は受けていない

※モニタリング調査に関する詳細な問い合わせ内容については Q20 にてご回答をお願いします。

「⑫その他」に回答の協議会は、具体的な相談内容について教えてください

令和元年度と令和2年度において、活動組織がモニタリング調査を行うに当たり、貴協議会に寄せられた問い合わせの内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① どのような調査を行えばよいのかわからない
- ② ガイドラインに、目指す森林の状態を把握するのに適した調査方法がない
- ③ 調査区（標準地）をどこに設定すればよいのかわからない
- ④ どのように数値目標を決めればよいのかわからない
- ⑤ 数値目標をどれくらいに設定すればよいのかわからない
- ⑥ いつ初回調査を行えばよいのかわからない
- ⑦ いつ年次調査を行えばよいのかわからない
- ⑧ モニタリング結果報告書にどんな数値を書けばよいのかわからない
- ⑨ モニタリング結果報告書にどんな写真を添付すればよいのかわからない
- ⑩ モニタリングの調査方法の変更をどのようにすればよいのかわからない
- ⑪ モニタリングの数値目標の変更をどのようにすればよいのかわからない
- ⑫ モニタリングの調査区（標準地）の変更をどのようにすればよいのかわからない
- ⑬ 積雪や災害被害等で、モニタリング調査を実施できない
- ⑭ モニタリング調査の結果が悪く、数値目標を達成できる見込みがない
- ⑮ 独自の調査方法でモニタリングを実施したい
- ⑯ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑰ 特にモニタリング調査について問い合わせはない

「⑯その他」に回答の協議会は、具体的な問合せの内容について教えてください

令和元年度と令和2年度において、活動組織がモニタリング調査を円滑に進められるようにするために、貴協議会が実施した支援の内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① モニタリング調査の際に貴協議会の担当者も参加し、適宜助言を行う
- ② モニタリング調査を実施する上で参考となる資料を独自に作成した
- ③ モニタリング調査を実施する上で参考となる資料の紹介を行っている（独自作成除く）
- ④ モニタリング調査についての助言や支援が可能な個人（専門家）の紹介を行う※
- ⑤ 本交付金を取得している活動組織から、モニタリング調査についての助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑥ 本交付金を取得していない団体から、モニタリング調査についての助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑦ モニタリング調査の実施方法に関する講習会・学習会を実施する
- ⑧ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ モニタリング調査に関連して、特に支援は行っていない

「⑧その他」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

※「④ モニタリング調査についての助言や支援が可能な個人（専門家）の紹介を行う」にご回答の場合には、差支えなければ、具体的な専門家のお名前・ご所属・専門分野を教えてください。

お名前	ご所属	専門分野

平成 29 年度から義務化されたモニタリング調査について、令和元年度から令和 2 年度にかけて、直面した課題について具体的に教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① モニタリング調査の方法が妥当であるかどうか判断ができない
- ② 提案された独自調査が適切であるかどうか判断ができない
- ③ 承認されていない独自調査のみを実施する団体がある
- ④ モニタリング調査の調査場所が適切であるかどうか判断ができない
- ⑤ 混み合っていない森林等、モニタリング調査のガイドラインで想定されていない状態の場所を調査場所とする団体がいる
- ⑥ 初回調査の調査結果が適切であるかどうか判断ができない
- ⑦ 初回調査に不備があった際の対応方法がわからない
- ⑧ 活動組織にモニタリング調査の方法を理解してもらうことが難しい
- ⑨ 活動組織がモニタリング調査に必要な道具を準備することができない
- ⑩ なぜモニタリング調査が必要であるのかを説明ができない
- ⑪ 調査方法について助言や指導を行うことのできる地域協議会の担当者がいない
- ⑫ 調査方法について助言や指導が可能な個人・団体に協力を仰ぐことができない
- ⑬ 活動組織の決めた数値目標が妥当であるかどうか判断ができない
- ⑭ 数値目標を決める際の前提となる「活動組織が実現可能な作業量」を評価できない
- ⑮ 初回調査実施後に、数値目標の達成が難しいと判明した団体にどう指導すればよいのかわからない
- ⑯ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑰ 特に課題とを感じるようなことはない

「⑯その他」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください

Q23 | モニタリング調査に関連する課題の発生状況

モニタリング調査について、本交付金を受けて活動を行った過去（平成 29 年度～令和元年度）と比べて、令和 2 年度の課題の発生状況にどのような変化があったか教えてください。

当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

- ① 過去 3 年間と比べて、モニタリング調査に関する課題の量が増えている
- ② 過去 3 年間と比べて、モニタリング調査に関する課題の量はほぼ変わらない
- ③ 過去 3 年間と比べて、モニタリング調査に関する課題の量は減っている

Q24 | モニタリング調査に関連する問題とその対応

モニタリング調査に関連して、貴協議会が他の地域協議会と共有することが望ましいと考える問題、あるいは対応が難しかった問題の事例について教えてください。

併せて、該当する問題に貴協議会がどのように対応したのかを教えてください。

自由記述にてご記入をお願いします。

他の地域協議会と共有することが望ましいと考える「モニタリングに関する問題」について教えてください。（自由記述）

上記の問題を解決するために貴協議会が行った対応について教えてください。（自由記述）

上記の問題が解決したかどうかについて教えてください。（択一回答）

- ① 解決できた
- ② 解決できなかった
- ③ わからない

令和元年度と令和2年度において、貴協議会が所轄管内での活動組織の安全対策を推進するために、活動組織に対して行っている取組について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 安全講習会の実施（地域協議会《事務局団体を含む》が主催あるいは共催するもの）
- ② 他団体（自治体等）が主催する安全講習会への参加呼びかけや案内の送付
- ③ 安全装備購入等の安全対策に交付金を利用するように指導
- ④ 保険加入の斡旋
- ⑤ 安全対策の不備が見つかった場合の事情確認 ※
- ⑥ 安全マニュアルの配布・紹介（※独自に作成したものでなくても構いません）
- ⑦ 記録写真による活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑧ 現地確認の際の活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑨ 事故情報に関する周知等の安全に関する注意喚起
- ⑩ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑪ 特に安全対策を推進するための取組は実施していない

※「⑤安全対策の不備が見つかった場合」については、写真記録等でヘルメット等の安全装備の着用がなかった場合を指します。

「⑩その他」に回答の協議会は、具体的な取組について教えてください

令和元年度と令和2年度において、活動組織で実施される安全講習や森林施業技術向上のための講習を円滑に実施できるようにするために、貴協議会が行っている支援について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 講師の紹介・斡旋
- ② 講習内容の指導
- ③ 講習に役立つマニュアル等の資料の配布・紹介
- ④ 活動組織内の講師候補向けの安全講習の実施
- ⑤ 活動組織内の講師候補向けに、他の活動組織の安全講習の紹介、参加呼びかけ
- ⑥ 地域協議会主催の安全講習会の実施
- ⑦ 都道府県が実施する安全講習会の紹介
- ⑧ 市区町村が実施する安全講習会の紹介
- ⑨ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑩ 活動組織に義務づけられた講習に関連して、特に支援は行っていない

「⑨その他」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

活動組織が安全講習や森林施業技術向上のための講習を進めていく上で、貴協議会が課題と感
じることについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 講師の予定者が、講師として適任であるかどうか判断がつかない場合がある
- ② 活動参加者の人数に対して講師の数が少ない
- ③ 講習日の日程調整がうまくいかない団体がある
- ④ 外部講師の所在地が、活動組織の所在地と離れていて認めてよいかわからない
- ⑤ 活動組織が具体的に何を学ぼうとしているのかわからない
- ⑥ 活動組織（内部講師）が提案した講習内容が、適切な内容ではなかった
- ⑦ 活動組織（内部講師）で独自に行う講習が、適切な内容であるかわからない
- ⑧ どのような条件を満たせば、講習の義務を果たすのか判断がつかない場合がある
- ⑨ 活動組織の活動対象地が講習に適した場所ではない場合がある
- ⑩ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑪ 特に課題と感ずるようなことはない

「⑩その他」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください

令和元年度の年度末における実施状況報告書等の書類提出に関連して、どのような問題や課題が生じたのかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 必要な書類がそろわなかった
- ② 活動記録が取られていない日があった
- ③ 書類に添付する写真が適切ではない状態だった（不鮮明である等）
- ④ 書類に添付する写真が不足していた
- ⑤ 本交付金の使途に適切ではない内容があった
- ⑥ 事前に申請された活動対象地とは異なる場所での作業・活動も含まれていた
- ⑦ 誤字・脱字が多かった
- ⑧ 計算ミス、計算漏れがあった
- ⑨ 安全上、不適切な状態を示す写真があった（ヘルメットを着用しない等）
- ⑩ 事前に相談がない状態で、モニタリング調査の内容が変更されていた
- ⑪ 安全講習や森林施業技術の向上のための講習が行われていなかった
- ⑫ モニタリング調査が実施されていなかった
- ⑬ 保険への加入がされていなかった
- ⑭ 災害等のやむを得ない事情により、十分な作業を実施できていない団体があった
- ⑮ 作業量が、申請内容や事前に受けた報告から見て十分とは言えない団体があった
- ⑯ 作業区域が申請された計画どおりに実施できていない団体があった
- ⑰ 締め切りが守られない団体があった
- ⑱ 関連の書類について把握している事務担当者に連絡がつかなかった
- ⑲ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑳ 特に問題や課題は生じていない

「⑲その他」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください

令和元年度の年度末における実施状況報告書等の関連書類の円滑な提出のために、貴協議会が行った具体的な支援の内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 書類作成のための説明会の開催
- ② 書類作成に当たっての独自の Q&A の作成・公開・配布
- ③ 書類記入例の作成・公開・配布
- ④ 書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- ⑤ 貴協議会事務局にて相談が可能な旨の連絡・周知
- ⑥ 書類作成状況についての事前確認の実施（定期的に活動記録が取られているか等）
- ⑦ 提出物に関するリストの作成・公開・配布
- ⑧ 金銭出納簿についての独自様式（自動計算有等）の作成
- ⑨ モニタリング結果報告書の独自様式の作成
- ⑩ ⑧と⑨以外の書類の独自様式の作成
- ⑪ その他（下の自由記述欄にご回答ください）

「⑪その他」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

Q30 | 本交付金終了後の活動組織の状況の把握

本交付金の活動を終了した活動組織のうち、貴協議会がその後の活動状況について把握している組織がどの程度あるか教えてください。

当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

- ① 交付金活動終了後の活動組織のほとんどについて活動状況を把握している
- ② 交付金活動終了後の活動組織の半数程度について活動状況を把握している
- ③ 交付金活動終了後の活動組織のうち一部について活動状況を把握している
- ④ 交付金活動終了後の活動組織の活動状況はほとんど把握していない

Q31 | 本交付金終了後の活動組織への支援

本交付金の活動を終了する活動組織に対して、活動を継続するための支援を貴協議会が行っていましたら具体的な内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 本交付金以外に活用可能な補助制度を紹介
- ② 林産物の販売収入に関する情報を提供
- ③ 活動の自立に向けて協力団体を紹介
- ④ 過去に自立化に成功した活動団体の事例を紹介
- ⑤ 該当団体のwebサイトへのリンクを地域協議会のwebサイトに掲載
- ⑥ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑦ 特に支援は行っていない

「⑥その他」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

本交付金による活動を円滑に進めるために、貴協議会の所轄管内の市町村から得ている協力について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 活動組織の申請書類の事前確認・作成支援
- ② 活動組織の具体的な作業状況の確認
- ③ 活動組織の活動対象地が、森林経営計画の範囲内かどうかの確認
- ④ 活動組織の活動場所の提供・斡旋
- ⑤ 安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習・指導の実施
- ⑥ 森林内での作業に対する助言
- ⑦ 本交付金の募集に関する広報
- ⑧ 活動組織の活動に関する広報
- ⑨ 年度末書類（実施状況報告書等）の作成に関する事前確認・作成支援
- ⑩ 活動組織向けの資機材の貸与
- ⑪ 森林・林業関係（新たな森林管理制度の取扱い等）の情報の提供
- ⑫ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑬ 特に本交付金に関連した協力は行っていない

「⑫その他」に回答の協議会は、具体的な協力の内容について教えてください

貴協議会が本交付金の取組を行うに当たり、協力関係にある団体や専門家、また協力の内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

協力団体 \ 協力内容	書類作成の指導	作業や活動についての助言	安全等の講習の実施	資機材の貸与	広報活動	モニタリング調査の支援	特に協力関係はない
① 都道府県	<input type="checkbox"/>						
② 別の地域協議会	<input type="checkbox"/>						
③ 森林組合	<input type="checkbox"/>						
④ 公益法人・NPO	<input type="checkbox"/>						
⑤ 大学・研究機関（研究者）	<input type="checkbox"/>						
⑥ その他（括弧内に協力相手を記入） （ ）	<input type="checkbox"/>						

※「⑤ 大学・研究機関（研究者）」で協力がある旨にご回答の場合で、お名前・ご所属等を教えていただける場合には、以下の記入欄に、お名前・ご所属・専門分野及び協力内容についてご回答ください（モニタリング調査関連の協力のみの場合、Q21 に記載をお願いします。）

お名前	ご所属	専門分野／協力内容

本交付金の活動を円滑に進めるために、令和2年度に貴協議会が独自に作成した資料がありましたら、その資料の内容と公開状況について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

資料内容 作成・公開状況	作成している 関連資料を独自に	webで公開している	印刷物として 配布を行っている
① 本交付金全般についての独自の手引き ※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 本交付金の申請のための独自の募集要項	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 本交付金で必要な書類の記載例	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 必要な書類のチェックリスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 安全対策に関する資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ モニタリング調査に関する資料 ※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 活動組織の活動事例集	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 該当の地域協議会独自の Q&A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ その他 (下の自由記述欄にご回答ください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 特に独自に作成している活動組織向けの資料はない	<input type="checkbox"/>		

※「①独自の手引き」もしくは「⑥モニタリング調査に関する資料」を令和2年度に独自に作成しており、webでの公開を行って“いない”場合は、お手数ですが、アンケート調査票に同封または E メールに添付して、(公財)日本生態系協会までお送りいただきますようお願い申し上げます。

「⑨その他」にご回答の協議会は、具体的にどのような資料であることを教えてください

貴協議会が、本交付金の活動を円滑に進めるために、令和元年度及び令和2年度に実施した説明会や講習会等がありましたら、その具体的な内容について教えてください。

1回の説明会・講習会で複数の内容が含まれる場合には、それぞれの該当する選択肢にチェックを入れてください。例えば、1回の説明会・講習会で、安全講習とモニタリング調査についての勉強会を兼ねている場合には、「④ 森林内での活動についての安全対策」と「⑦ モニタリング調査関係」の双方にチェックを入れてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 申請書類の作成
- ② 交付金対象として採択された後の書類作成（実施状況報告書等）
- ③ 動力付き機械（チェーンソー・刈払機等）の利用方法、技能習得
- ④ 森林内での活動についての安全対策（動力付き機械の利用以外。熱中症防止等）
- ⑤ 森林整備の手法（施業方法の考え方・かかり木の処理・大径木の伐採方法等）
- ⑥ 活動事例発表、実際に活動を行っている団体の現地視察会等
- ⑦ モニタリング調査関係
- ⑧ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 特に説明会・講習会は実施していない

「⑧その他」にご回答の協議会は、具体的な内容について教えてください

貴協議会の所轄管内にある活動組織の活動の成果における全体的な傾向として、下記に示す項目に関する進捗状況について、貴協議会から見た印象を教えてください。

横 1 行ごとに当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

進捗状況 活動の成果	十分取組が進んでいる	ある程度取組が進んでいる	どちらともいえない	やや取組が進んでいない	取組が進んでいない	よくわからない
① 活動を行う上での安全性の確保	<input type="checkbox"/>					
② 森林管理を行う人材の育成	<input type="checkbox"/>					
③ 森林の整備による景観の改善	<input type="checkbox"/>					
④ 森林由来の資源の利用の増加	<input type="checkbox"/>					
⑤ 森林・林業に関する理解の向上	<input type="checkbox"/>					
⑥ 地域(集落)のコミュニティの活性化	<input type="checkbox"/>					
⑦ 関連する人や団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>					
⑧ 関連する企業からの支援	<input type="checkbox"/>					
⑨ 活動を継続するための財源の確保	<input type="checkbox"/>					
⑩ 活動を継続するための人材の確保	<input type="checkbox"/>					

他の地域協議会と共有すべき事例として、令和元年度以降、貴協議会が運営を行う上で特に苦勞したことについて教えてください。また、その苦勞した問題をどのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすれば、それはどのような理由によるものかを教えてください。

自由記述にてご記入をお願いします。

「苦勞したこと」を教えてください。(自由記述)

苦勞したことは (解決した ・ 対応中 ・ 解決できなかった)

※当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

「苦勞したこと」をどのように解決したのか、あるいは解決が困難である理由を教えてください。
(自由記述)

上記の「苦勞したこと」を解決あるいは予防するために、貴協議会で実施している独自の取組がありましたら教えてください。(自由記述)

本交付金に関連して、今年度以降、国に対して要望することがございましたら教えてください。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。

本年度事業において、全国の活動組織にとって参考となるような取組を行う活動組織について現地ヒアリング調査を行い、その結果を活動事例集及び事例発表会で紹介する予定です。つきましては、所轄管内にある活動組織のうち、上記の視点から、他地域の参考となる先進的な活動を行っていると思われる団体を最大3つまで推薦し、その理由も併せて教えてください。

【Q39 に関する注意事項】

※推薦理由に関する記入欄が不足する場合は、別紙にご記入ください。

※ご紹介いただいた団体の一部につきましては、別途、活動組織に対する現地でのヒアリングを実施させていただく場合がございます。その際には、地域協議会の皆様に、対象となる活動組織への事前連絡や仲介をお願いする場合がございます。ご協力をお願いいたします。

※現地ヒアリングをさせていただいた団体につきまして、本年度以降の活動事例集への掲載や、本年度に実施される事例発表会の候補団体とすることを考えております。ただし、個人情報保護等の観点から、活動組織の代表者または事務担当者の同意がない場合には、活動組織の取組の具体的な内容については、活動事例集や一般公開する報告書には掲載いたしません。

※Q39 にご回答いただいた内容は、後日インターネット等で公開する報告書において結果を掲載することはありません。

(推薦する活動組織その1)

活動組織名	
活動タイプ	<p>対象となる活動組織が令和2年度に交付金を取得する(予定の)活動タイプにチェックを入れてください。(複数回答可)</p> <p><input type="checkbox"/>① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</p> <p><input type="checkbox"/>② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林資源利用タイプ</p> <p><input type="checkbox"/>④ 森林機能強化タイプ</p>
推薦理由	<p>活動組織の選定理由にチェックを入れてください。(複数回答可)</p> <p>この欄にチェックのない場合でも推薦いただくことが可能です。</p> <p><input type="checkbox"/>① 活動の自立化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/>② 森林・竹林の整備において、効果的な活動を行っている</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林・山村のめぐみを活かした地域の活性化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/>④ 書類作成等の事務作業で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/>⑤ 具体的な森林作業や安全対策等で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/>⑥ モニタリング調査について先進的と言える取組を行っている</p> <p>※選定理由とした活動内容を具体的にご記入ください。</p> <div data-bbox="323 1326 1474 2018" style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>

(推薦する活動組織その2)

活動組織名	
活動タイプ	<p>対象となる活動組織が令和2年度に交付金を取得する（予定の）活動タイプにチェックを入れてください。（複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/>① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</p> <p><input type="checkbox"/>② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林資源利用タイプ</p> <p><input type="checkbox"/>④ 森林機能強化タイプ</p>
推薦理由	<p>活動組織の選定理由にチェックを入れてください。（複数回答可） この欄にチェックのない場合でも推薦いただくことが可能です。</p> <p><input type="checkbox"/>① 活動の自立化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/>② 森林・竹林の整備において、効果的な活動を行っている</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林・山村のめぐみを活かした地域の活性化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/>④ 書類作成等の事務作業で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/>⑤ 具体的な森林作業や安全対策等で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/>⑥ モニタリング調査について先進的と言える取組を行っている</p> <p>※選定理由とした活動内容を具体的にご記入ください。</p> <div data-bbox="322 1328 1473 2018" style="border: 1px solid black; height: 308px;"></div>

(推薦する活動組織その3)

活動組織名	
活動タイプ	<p>対象となる活動組織が令和2年度に交付金を取得する(予定の)活動タイプにチェックを入れてください。(複数回答可)</p> <p><input type="checkbox"/>① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</p> <p><input type="checkbox"/>② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林資源利用タイプ</p> <p><input type="checkbox"/>④ 森林機能強化タイプ</p>
推薦理由	<p>活動組織の選定理由にチェックを入れてください。(複数回答可)</p> <p>この欄にチェックのない場合でも推薦いただくことが可能です。</p> <p><input type="checkbox"/>① 活動の自立化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/>② 森林・竹林の整備において、効果的な活動を行っている</p> <p><input type="checkbox"/>③ 森林・山村のめぐみを活かした地域の活性化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/>④ 書類作成等の事務作業で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/>⑤ 具体的な森林作業や安全対策等で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/>⑥ モニタリング調査について先進的と言える取組を行っている</p> <p>※選定理由とした活動内容を具体的にご記入ください。</p> <div data-bbox="327 1335 1474 2018" style="border: 1px solid black; height: 305px; width: 100%;"></div>

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料2 活動組織向けアンケート調査票

森林・山村多面的機能発揮対策に係る活動状況についてのアンケート

団体名、団体所在地、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

団体名			
団体所在地 (市区町村まで)	都・道・府・県	市・区・町・村	
アンケート記入者名			
アンケート記入者 の連絡先	電話番号		
	メールアドレス		

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して森林づくりや地域活性化に取り組む団体（活動組織）の皆様を対象に、各種の活動状況や活動計画の内容をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様の参考にしていただくことを目的としています。ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。
- アンケート調査票は、貴団体の森林づくり・地域活性化の取り組みの全体像を把握されている団体の代表者様、ご担当者様等にご記入をお願いいたします。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢の回答欄（□）にチェック（☑）をお願いします。
- ご記入後、**令和 2 年 9 月 23 日（水）**までに同封の返信用封筒または E メールにて、アンケート調査票をご返送いただくようお願いいたします。
- E メールでのご回答を希望される場合は、下記調査票ダウンロードサイトにて調査票をダウンロードしていただくか、（公財）日本生態系協会までご連絡をお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、（公財）日本生態系協会までご連絡をお願いいたします。
- アンケート調査票は、本紙を含め 26 ページです。質問数は全 **30** 問です。
- **別紙の「森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート」にもご記入いただき、同封の返信用封筒または E メールにてご返送ください。（令和元年度に取得した団体対象）**

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会（担当：小川、亀田、井上）

住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

E メール：shinrin2020@ecosys.or.jp

調査票ダウンロードサイト：<http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>



Q 1 | 活動組織の形態

貴団体の形態について教えてください。

当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

- ① 任意団体（自治会やサークル、親睦会等の法人格のない団体で自伐林家を除く）
 ② 財団法人・社団法人 ③ NPO 法人 ④ 森林組合
 ⑤ 企業 ⑥ 学校・幼稚園・保育園 ⑦ 自伐林家
 ⑧ その他

Q 2 | 交付金のタイプ

貴団体が令和元年度及び令和 2 年度に取得している本交付金の内容、活動タイプを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

	A 令和元年度	B 令和 2 年度
① 活動推進費（初年度のみ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域環境保全タイプ 里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域環境保全タイプ 侵入竹除去、竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林資源利用タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林機能強化タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 資機材への支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 本交付金を取得していない（しない予定である）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q 3 | 活動対象地とする森林

貴団体が本交付金を用いた活動を行っている森林について教えてください。(現在の状態をご回答ください)

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 針葉樹林 ② 広葉樹林 ③ 針広混交林
 ④ 竹林 ⑤ その他 (下の自由記述欄にご回答をお願いします)

「⑤その他」にご回答の場合には、具体的な活動対象地の状態について教えてください

Q 4 | 外部委託について

本交付金を使った活動の中での外部委託の有無(予定を含む)及び内容を教えてください。

当てはまる選択肢にすべてチェックを入れてください。

- ① 大径木や急傾斜地の樹木伐採・搬出・処分等を外部委託する
 ② 危険木・枯損木・風倒木・伐採根の除去や搬出、処分等を外部委託する
 ③ あずまや等の設備の設置を外部委託する
 ④ 作業道の作設・整備を外部委託する
 ⑤ 境界の測量を外部委託する
 ⑥ 研修会講師を外部委託する
 ⑦ その他 (下の自由記述欄にご回答をお願いします)
 ⑧ 外部委託は行っていない

「⑧その他」にご回答の場合には、具体的な外部委託の内容について教えてください

Q 5 | 活動日 1 日当たりの参加人数

令和元年度及び令和 2 年度の貴団体が交付金を用いて行う活動について、“活動日 1 日当たり”で実際に活動に参加されている方のおおよその平均参加人数（見込含む）を年齢層別に教えてください。

※回答はおおよその数字で構いません。（参加者に年齢等を改めて尋ねる必要はありません）

横 1 行ごとに当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

年齢 \ 人数	参加なし	1~5 人	6~10 人	11~20 人	21 人以上
① 未成年（20 歳未満）	<input type="checkbox"/>				
② 20~39 歳	<input type="checkbox"/>				
③ 40~59 歳	<input type="checkbox"/>				
④ 60~69 歳	<input type="checkbox"/>				
⑤ 70 歳以上	<input type="checkbox"/>				

Q 6 | 地元住民の参加状況

貴団体の本交付金を用いて行う活動について、地元住民の方の参加状況を教えてください。

※「地元住民」とは活動対象地周辺の集落の住民と考えます。「大字」単位程度で見て、活動対象地と同じあるいは隣接する集落の場合には「活動対象地周辺の集落」と考えてください。

当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

- ① ほぼ 100%が地元住民である
- ② 75%以上 99%未満程度が地元住民である
- ③ 50%以上 75%未満程度が地元住民である
- ④ 25%以上 50%未満程度が地元住民である
- ⑤ 地元住民は 25%未満である

貴団体が本交付金を用いて行う活動の目的を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 景観を良くしたい
- ② 地域コミュニティの維持・活性化をしたい
- ③ 地球温暖化防止に貢献したい（大気中の CO₂ を減らしたい）
- ④ 地域の生物多様性を守りたい
- ⑤ 森林から得られる森林資源を活用したい
- ⑥ 対象となる森林での鳥獣被害を軽減したい
- ⑦ 対象となる森林周辺の農地等における鳥獣被害を軽減したい
- ⑧ 森林の近くの道路を安心して通れるようにしたい
- ⑨ 森林が有する水源涵養機能を守りたい
- ⑩ 森林で土砂災害等の災害が発生しないようにしたい
- ⑪ 道路、住宅、農地等への樹木や竹の倒伏・侵入の被害を防ぎたい
- ⑫ 活動に関係する人々間の交流を深めたい
- ⑬ 森林を利用した教育活動や自然体験活動を行いたい
- ⑭ 森林に関連する雇用を生み出したい
- ⑮ 森林に関わる取り組みと農業との連携を進めていきたい（肥料づくり等）
- ⑯ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑰ 特に目標とすることはない

「⑯その他」にご回答の場合には、具体的な目標について教えてください

令和2年度における貴団体の、森林における活動を行うための本交付金以外の資金確保の方法（見込含む）について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 構成員からの会費
- ② 個人・企業からの寄付金
- ③ 募金（インターネット、振込、募金箱等を活用）
- ④ 公益法人からの助成金（緑の募金、緑と水の森林ファンド等）
- ⑤ 国からの交付金・助成金（本交付金は除く）
- ⑥ 都道府県からの交付金・助成金（本交付金は除く）
- ⑦ 市区町村からの交付金・助成金（本交付金は除く）
- ⑧ 企業からの助成金
- ⑨ 自治会・町内会からの支援
- ⑩ 森林から得られる生産物（薪、炭、山菜、キノコ等）の販売収益
- ⑪ 木材を利用した製品等の販売収益
- ⑫ イベント・講習会の参加費
- ⑬ 他の収益事業部門からの収益
- ⑭ 伐採や下草刈等の謝礼金や事業の請負金
- ⑮ 活動場所の所有者（森林所有者、地主等）からの支出
- ⑯ 特に資金源はない

Q9 | 地方自治体による上乗せ支援

令和元年度及び令和2年度に貴団体が本交付金を取得するに際し、地方自治体から、上乗せ支援が得られたかどうか（予定含む）を教えてください。

当てはまる選択肢1つだけチェックを入れてください。

- ① 都道府県と市町村の双方から上乗せ支援が得られた、あるいは得られる見込みである
- ② 都道府県からのみ上乗せ支援が得られた、あるいは得られる見込みである
- ③ 市町村からのみ上乗せ支援が得られた、あるいは得られる見込みである
- ④ 令和2年度内に上乗せ支援が得られるかどうかはまだわからない
- ⑤ 上乗せ支援は得られなかった

Q10 | 地方自治体による上乗せ支援

令和元年度及び令和2年度に貴団体が本交付金を取得するに際し、地方自治体から、上乗せ支援が受けられるよう、何らかの対応を行ったかどうか（予定を含む）を教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 都道府県または市町村に相談した
- ② 地域協議会に相談した
- ③ 特に何もしていない
- ④ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）

「④その他」にご回答の場合には、具体的に対応した内容（例：要望書を提出した等）について教えてください。

令和元年度に本交付金を利用した団体にお伺いします。

本交付金の活動に当たって、本交付金（都道府県、市町村の上乗せ支援含む）以外の自己負担金の有無及び自己負担金が一番多かった項目について教えてください。

当てはまる選択肢 1 つだけチェックを入れてください。

- ① 自己負担金は主に人件費が多かった
- ② 自己負担金は主に委託費が多かった
- ③ 自己負担金は主に資機材の購入費、設備の整備費が多かった
- ④ 自己負担金は主に消耗品費が多かった
- ⑤ 自己負担金は主に賃借料が多かった
- ⑥ 自己負担金は上記以外の費用が多かった
- ⑦ 自己負担金は生じなかった

金銭による自己負担金以外に、会計処理には現れない物品等の提供や奉仕活動等、自己負担している内容について教えてください。

当てはまる選択肢 1 つだけチェックを入れてください。

- ① 自己負担金以外に、奉仕活動等の自己負担をしているものはない
- ② 自己負担金以外に、奉仕活動等の自己負担をしているものがある
（下の自由記述欄にご回答をお願いします）

「②奉仕活動等の自己負担をしているものがある」にご回答の場合には、具体的な内容について教えてください。

貴団体が本交付金を用いて活動を行うに当たり、支援を受けている行政機関や団体・専門家、及び支援の内容について教えてください。

横 1 行ごとに当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

支援を受けた内容 協力団体	A 書類作成	B 森林内での活動 (助言)	C 安全講習	D 資機材の貸与	E 広報活動	F モニタリング調査	G その他 (自由記述欄にも回答)	H 特に協力関係はない
① 都道府県	<input type="checkbox"/>							
② 市町村	<input type="checkbox"/>							
③ 地域の森林組合等の林業 関係団体	<input type="checkbox"/>							
④ NPO・森林ボランティア 団体	<input type="checkbox"/>							
⑤ 大学や研究機関 (研究者)	<input type="checkbox"/>							

「G その他」にご回答の場合には、具体的な支援内容について教えてください。

※複数の協力団体がある場合は、例：都道府県から〇〇の支援、大学から〇〇の支援、と協力団体も記入してください。

本交付金では、申請段階で、いくつかの書類を提出することになります。

申請時の書類提出に当たり、地域協議会から修正指示を受けた書類がございましたら、その書類について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 様式第 9 号 事前着手届（採択決定前着手届）
- ② 様式第 10 号 活動組織規約（新規参加組織のみ）
- ③ 様式第 10 号 団体への参加同意書（構成員や代表、役員を記載した書類）
- ④ 様式第 11 号 協定書（森林所有者が活動組織以外の場合等）
- ⑤ 様式第 12 号 活動計画書の「6. 地域活性化への寄与」
- ⑥ 様式第 12 号 活動計画書の「7. 年度別スケジュール」
- ⑦ 様式第 12 号 活動計画書の「8. モニタリング調査方法」
- ⑧ 様式第 12 号 活動計画書の「9. 安全講習等の名称及び内容」
- ⑨ 様式第 12 号 活動計画書の「12. 計画図（5,000 分の 1 の地図等）」
- ⑩ 様式第 12 号 活動計画書の「13. その他（1）写真」
- ⑪ 様式第 12 号 活動計画書の「13. その他（2）収入」
- ⑫ 様式第 12 号 活動計画書のうち、上記⑤～⑪以外の内容
- ⑬ 様式第 13 号 採択申請書の「6. 月別スケジュール」
- ⑭ 様式第 13 号 採択申請書のうち、上記⑬以外の内容
- ⑮ 資機材の購入予定に関する書類
- ⑯ 特に指示を受けた書類はない（12 ページの Q16 に移動してください）

Q14 の質問で、申請時の書類作成に当たり、修正指示を受けた経験があると回答した団体にお伺いします。

具体的な修正指示の内容について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 交付金の使途に適切ではない内容があった
- ② 必要な添付書類を用意できなかった・必要な添付書類が不足していた
- ③ 誤字・脱字、記載ミスや計算ミスがあった
- ④ 申請日や提出日等の日付の修正を指摘された
- ⑤ 必要箇所についての記載漏れがあった
- ⑥ 写真が不適切と言われた（写真の撮り方、被写体、貼付の仕方等含む）
- ⑦ 活動計画図がわかりにくいと言われた（活動場所や面積がわかりにくい等）
- ⑧ 記載内容が交付金を取得するための必要条件を満たしていなかった（例えば、面積や参加人数について交付金の取得条件を満たしていない等）
- ⑨ 協定書の内容が適切でなかった
- ⑩ 森林経営計画が策定された森林が含まれていた
- ⑪ 内容が交付金の期間中には実現が難しいと言われた
- ⑫ 安全のために着用する装備が十分でなかった
- ⑬ 安全講習の内容が適切ではなかった
- ⑭ 保険に未加入、または、補償内容が不十分であった
- ⑮ モニタリング調査の内容が適切ではなかった
- ⑯ 古い書式を使用していた

本交付金の申請を行う際に苦勞したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 活動計画書等必要な書類の作成が難しかった
- ② 活動対象地の面積の算定が難しかった
- ③ 活動計画図を用意することが難しかった
- ④ 土地の境界が不明（所有者が不明等含む）でどこまで活動対象地にできるのかわからなかった
- ⑤ 活動組織の規約を作ることが難しかった
- ⑥ 名簿（参加同意書）に記載する参加者を集めることが難しかった
- ⑦ 活動対象地の確保が難しかった（土地利用協定書の締結が困難等）
- ⑧ 活動の候補地が、交付金の要件を満たしているかどうかの確認が難しかった
- ⑨ どのような保険に加入すればよいのかわからなかった
- ⑩ どのようなモニタリング調査を選べばよいのかわからなかった
- ⑪ 希望する森林づくりの目的に適したモニタリング調査方法がガイドラインになかった
- ⑫ 地元の市町村から有効性、妥当性の同意を得ることが難しかった
- ⑬ 書類の量が多く作成に時間がかかった
- ⑭ 特に苦勞したことはない（14 ページの Q18 に移動してください）

申請を行う際に苦勞したことを、どのように解決したかについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 地域協議会に相談した
- ② 都道府県（地方事務所を含む）に相談した
- ③ 市町村に相談した
- ④ 他の市民団体や活動組織に相談した
- ⑤ 学識経験者等、関連の問題に知見を持つ個人（専門家）に相談した
- ⑥ 自治会や町内会等の地縁団体、地域の住民に相談した
- ⑦ 企業に相談した
- ⑧ 森林組合に相談した
- ⑨ 活動組織の構成員のみで解決した
- ⑩ 本交付金に関する手引きやガイドライン等の解説資料を確認した
- ⑪ いまだ問題は解決できていない

本交付金を用いた活動に関連して、活動（モニタリング調査を除く）を行う上で苦勞したことを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 活動記録の作成が難しい
- ② 作業時における写真撮影（集合写真・作業前・作業中・作業後）が難しい
- ③ 作業写真整理帳の作成が難しい
- ④ 金銭出納簿の作成（領収書の整理含む）が難しい
- ⑤ 作業員・参加者の人数の確保ができない
- ⑥ 必要な技術を持つ作業員・参加者の確保ができない
- ⑦ 作業日の日程調整が難しい
- ⑧ 交付金をどのような使途で利用できるのかわからなかった
- ⑨ 想定以上の出費があった
- ⑩ 活動資金の不足
- ⑪ 資機材・安全装備を用意できない
- ⑫ 作業中・活動中に病人・けが人が発生した
- ⑬ 周辺の物品（家屋や電柱・電線等）の破損事故が生じた
- ⑭ 急傾斜地等、活動対象地の地形的な理由で作業が難しい
- ⑮ 対象地においてシカやイノシシ等による鳥獣被害が生じた
- ⑯ クマやハチ等の危険生物の対策
- ⑰ 大雨、地震、台風等により、活動対象地で倒木や斜面崩壊等の被害が生じた
- ⑱ 活動組織内の人間関係
- ⑲ 活動組織内で、目指す森林の目標像が一致しなかった
- ⑳ 特に苦勞したことはない（16 ページの Q20 へ移動してください）

Q18の質問で、活動を行う上で苦勞したことがあると回答した団体にお伺いします。

実際に活動（モニタリング調査を除く）を行う上で苦勞したことを、どのように解決したのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 地域協議会からの支援を受けた
- ② 都道府県（地方事務所等の出先機関を含む）からの支援を受けた
- ③ 市町村からの支援を受けた
- ④ 他の市民団体や活動組織からの支援を受けた
- ⑤ 学識経験者等、関連の問題に知見を持つ個人（専門家）からの支援を受けた
- ⑥ 自治会や町内会等の地縁団体、地域の住民より支援を受けた
- ⑦ 企業からの支援を受けた／企業に業務委託をした
- ⑧ 森林組合からの支援を受けた／森林組合に業務委託をした
- ⑨ 活動組織の構成員のみで解決した
- ⑩ 本交付金に関する手引きやガイドライン等の解説資料を確認した
- ⑪ いまだ問題は解決できていない

本交付金を用いた活動を行う上で、講じている安全対策について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 作業実施前に活動参加者間で注意事項の確認をしている
- ② 参加者全員が森林内に入るときにはヘルメットを着用する
- ③ 参加者全員が長袖・長ズボン等の作業に適した服装をする
- ④ 動力付き機械を使用する際は必ず関連した安全装備を装着する
- ⑤ 機械・工具のメンテナンスを適切に行う
- ⑥ 機械・工具は、外部の安全講習会へ参加する等適切な使い方を学んだ上で利用する
- ⑦ 活動の際には必ず救急用医薬品を用意する
- ⑧ 熱中症対策を行っている（飲料の用意、こまめな休憩等）
- ⑨ 活動対象地周辺における緊急時のための病院の場所や連絡先を把握している
- ⑩ 応急手当・応急処置の講習を受けたものが作業に参加している
- ⑪ 参加者全員が対象となる形で、傷害保険に加入している
- ⑫ 賠償責任保険に加入している
- ⑬ 木を倒す等の危険作業時には、危険範囲内に人がいないことを確認する
- ⑭ 指さし安全確認を行っている
- ⑮ 参加者に対象森林内の危険生物（クマ・ハチ・ヘビ等）についての周知を行う
- ⑯ 危険生物（クマ・ハチ・ヘビ等）対策をしている
- ⑰ 安全上、ヒヤリ・ハットしたことがないかを参加者間で確認する
- ⑱ 作業実施前に準備運動をしている
- ⑲ 悪天候時に作業を中止する等、最新の気象情報を把握するようにしている
- ⑳ 特に安全対策は行っていない
- ㉑ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）

「㉑その他」にご回答の場合には、具体的な安全対策の内容について教えてください。

本交付金では、安全講習や森林施業技術の向上のための講習を行うことが義務付けられています。

令和元年度及び令和2年度に実施（予定含む）した、安全講習や森林施業技術の向上のための講習の内容について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 安全装備の着用及び安全装備が必要な理由
- ② 動力付き機械（チェーンソー・刈払機等）の使用法
- ③ 動力付き機械（チェーンソー・刈払機等）の点検・メンテナンス方法
- ④ 手工具（ノコギリ・鉋・鎌等）の使用法
- ⑤ 手工具（ノコギリ・鉋・鎌等）の点検・メンテナンス方法
- ⑥ 樹木の伐倒時の安全対策
- ⑦ 樹木の運搬時の安全対策
- ⑧ 森林内の危険生物（クマ・イノシシ・ハチ・ヘビ・ツタウルシ等）対策
- ⑨ 急病や負傷時の応急措置
- ⑩ ヒヤリ・ハット事例の共有
- ⑪ 熱中症対策
- ⑫ 安全講習の内容は決まっていない

貴団体が、令和元年度及び令和2年度に実施した（予定含む）モニタリング調査の内容について、教えてください。

多数の調査を実施している場合には、「モニタリング結果報告書」に記載予定の調査について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 木の混み具合調査（相対幹距比調査）
- ② 木の混み具合調査（間伐率調査）
- ③ 木の混み具合調査（胸高断面積調査）
- ④ 植生調査（下層植生調査）
- ⑤ 萌芽再生率調査
- ⑥ 樹木の本数調査
- ⑦ 見通し調査
- ⑧ 苗木の活着状況調査
- ⑨ 竹の本数調査
- ⑩ 木材資源利用調査
- ⑪ 特用林産物等利用量調査
- ⑫ 植生調査（植栽木の成長量調査）
- ⑬ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑭ 活動計画書と異なる調査を行う予定だが、まだ具体的な調査方法は決まっていない

「⑬その他」にご回答の場合には、具体的なモニタリング調査の内容を教えてください

貴団体が、モニタリング結果報告書に記載するモニタリング調査を選んだ理由について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 目指す森林づくりの進捗状況を把握する上で適切であったため
- ② 地域協議会より勧められたため
- ③ 必要な作業量が具体的にわかるため
- ④ 交付金取得期間中に数値で結果を示すことができる見込みが大きかったため
- ⑤ 調査の仕方がわかりやすかったため
- ⑥ 調査に当たっての作業負担が少ないと考えられたため
- ⑦ もともと該当の調査を実施していたため
- ⑧ 他の活動組織が実施しているので、相談等がしやすかったため
- ⑨ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑩ 活動計画書と異なる調査を行うが、まだ具体的な調査方法は決まっていない

「⑨その他」にご回答の場合には、具体的な理由を教えてください

モニタリング調査を実施する上で、貴団体が苦労したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① モニタリング調査を行うのに必要な資機材がない、あるいは不足していた
- ② モニタリング調査を行うのに必要な人手が不足していた
- ③ モニタリング調査の目的や必要性の理解を構成員内で共有することが難しかった
- ④ モニタリング調査を行うのに必要な技術がなかった
- ⑤ モニタリング調査を行うのに必要な専門知識がなかった（樹種名がわからない等）
- ⑥ 何を対象として調査を行えばよいのかわからなかった
- ⑦ どのように数値目標を決めればよいのかわからなかった
- ⑧ 想定される作業量からみて、実現可能な数値目標の設定が難しかった
- ⑨ 過大な数値目標を立ててしまい、目標を達成するのに必要な作業負担が大きかった
- ⑩ 調査対象地がモニタリング調査を行うことができるような状態になかった（災害による被害も含む）
- ⑪ 調査区（円形調査区、方形調査区）の面積が広すぎて負担が大きかった
- ⑫ その他 （下の自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑬ 特にモニタリング調査で苦労したことはない （22 ページの Q26 に移動してください）
- ⑭ まだモニタリングの初回調査を実施していない （22 ページの Q26 に移動してください）

「⑫その他」にご回答の場合には、具体的に苦労したことを教えてください

Q24 の質問で、モニタリング調査を行うために、苦労したことがあると回答した団体にお伺いします。

モニタリング調査で苦労したことについて、どのように解決したのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 地域協議会の助言・支援を受けた
- ② 地域協議会より調査について詳しい方（専門家等）の斡旋・紹介を受けた
- ③ 都道府県（地方事務所等の出先機関を含む）からの助言・支援を受けた
- ④ 市町村からの助言・支援を受けた
- ⑤ 大学や研究機関等からの助言・支援を受けた
- ⑥ 調査について経験や知見を持つ別の団体の助言・支援を受けた
- ⑦ 調査について経験や知見を持つ個人（専門家含む）の助言・支援を受けた
- ⑧ 外部の講習会等を通じて、活動組織の参加者の能力や知識を高めることで対応した
- ⑨ 他の助言・支援を受けずに、活動組織内での努力で対応した
- ⑩ モニタリング調査のガイドラインを確認して対応した
- ⑪ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑫ まだ、モニタリング調査で森林・竹林の状態を把握することができていない

「⑪その他」にご回答の場合には、具体的な解決方法を教えてください

令和元年度に交付金を取得した団体の皆様は 22 ページの Q26 から 26 ページの Q30
令和2年度より交付金を取得した団体の皆様は、26 ページの Q30 にご回答ください。

令和元年度に交付金を取得した団体にお伺いします。

本交付金では年度末に、実施状況報告書等の書類を提出することになります。

年度末に提出する関連書類で、地域協議会から修正の指示を受けた書類がございましたら、どの書類で修正指示を受けたのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 様式第 17 号 活動記録
- ② 様式第 17 号 (別添 1) 作業写真整理帳
- ③ 様式第 17 号 (別添 2) 作業写真整理帳 (デジカメ写真の場合で主要でないもの)
- ④ 様式第 18 号 金銭出納簿
- ⑤ 様式第 19 号 モニタリング結果報告書
- ⑥ 様式第 20 号 実施状況報告書
- ⑦ 様式第 20 号 (別紙) 実施状況整理票
- ⑧ 年度末に提出する書類で修正の指示は受けていない
(24 ページの Q28 に移動してください)

Q26 の質問で、年度末に提出する書類作成を作成する上で、地域協議会から修正・指導を受けた経験があると回答した団体にお伺いします。

具体的な修正や指導の内容について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 提出書類が不足していた
- ② 必要事項の記入漏れがあった
- ③ 誤字脱字、記載ミスや計算ミスがあった
- ④ 名簿や領収書等の必要な添付書類（写真除く）が不足していた
- ⑤ 交付金の収支に関する書類（出納簿等）に不備があった（日付等が正しく記載されていない等）
- ⑥ 必要な写真が不足していた（写真の添付漏れがあった等）
- ⑦ 適切な写真が使われていなかった（写真が不鮮明で証明用の資料にならない等）
- ⑧ 書類の内容と写真の内容が合っていなかった（作業日と写真の日付が異なる等）
- ⑨ 本交付金の対象とならない活動や物品を含めていた
- ⑩ 活動記録や金銭出納簿等の書類間の記載内容の整合性が合っていなかった
- ⑪ 提出期限に遅れた
- ⑫ 古い書式を使用していた

令和元年度に交付金を取得した団体にお伺いします。

年度末に提出する関連書類の作成に当たり、苦労したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 必要な書類（添付書類含む）が何かわからなかった
- ② 領収書等必要な書類の保管・整理が難しかった
- ③ 必要な写真を用意するのが難しかった
- ④ フィルム式のカメラを使っているため、報告書様式に合わせるのが難しかった
- ⑤ パソコンの利用が分からなかった（慣れていなかった）ため、書類作成に苦労した
- ⑥ 活動日数が多く、記述する内容や写真も多数で書類作成の負担が大きかった
- ⑦ 作業写真整理帳等に掲載（利用）できる写真が少なかった
- ⑧ 金銭出納簿等に記載する経費の計算が難しかった
- ⑨ 本交付金の対象となるのかどうかの判断が難しい内容があった
- ⑩ 年度末の書類をまとめる際に必要な記録を十分に取っていないかった
- ⑪ 書類作成を行うことのできる構成員が少なかった
- ⑫ 作業が提出締切日近くまであり提出期限に間に合わせるのに苦労した
- ⑬ モニタリング調査等、必要な作業を必要書類作成時点で実施していなかった
- ⑭ 特に苦労したことはなかった （26 ページの Q30 に移動してください）

Q28の質問で、苦労したことがあると回答した団体にお伺いします。

年度末に提出する書類の作成に当たり、苦労したことについて、どのように解決したのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 地域協議会に相談した
- ② 都道府県（地方事務所を含む）に相談した
- ③ 市町村に相談した
- ④ 他の市民団体や活動組織に相談した
- ⑤ 森林組合に相談した
- ⑥ 学識経験者等、関連の問題に知見を持つ個人（専門家）に相談した
- ⑦ 活動組織の構成員のみで解決した
- ⑧ 本交付金に関する手引きやガイドライン等の解説資料を確認した
- ⑨ 課題は解決できていない

本交付金事業全般あるいは地域協議会に対するご意見ご要望がございましたら、ご記入ください。

また、本アンケート内容に関すること、添付されている効果チェックシートへの記入を行う上で、気になった点等がございましたら、併せてご意見等をいただければ幸いです。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

資料3 本交付金の交付を受けたことがない団体向けアンケート調査票

地域活性化の取組等の活動を行う団体に関する林野庁アンケート

- このアンケート調査は、林野庁が行っている「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を通じた地域の団体の皆様の活動支援のあり方等を検討することを目的としています。
- 森林に関わる活動、都市・山村交流や地域人口・関係人口の創出等に係る活動に取り組まれている団体の皆様を対象に、活動状況をお尋ねしています。ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。
- 本アンケート調査票は、貴団体の取組を把握されている代表者様またはご担当者様にご記入くださいますようお願いいたします。
- アンケート調査票は、本紙を含め8ページです。質問数は全10問です。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢の回答欄（□）にチェック（☑）をお願いします。
- ご記入後、**令和3年1月29日（金）**までに同封の返信用封筒またはEメールにて、本アンケート調査票をご返送くださいますようお願いいたします。
- Eメールでのご回答を希望される場合は、下記調査票ダウンロードサイトにて調査票をダウンロードしていただくか、本調査票を下記Eメールアドレスにお送りください。そのほかご不明な点は（公財）日本生態系協会までご連絡をお願いいたします。

団体名、団体所在地、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

団体名		
団体所在地 (市区町村まで)	都・道・府・県	市・区・町・村
アンケート記入者名		
アンケート記入者	電話番号	
連絡先	Eメールアドレス	

<調査受託者：お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会（担当：小川、亀田、井上）

住 所：171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

Eメール：shinrin2020@ecosys.or.jp

調査票ダウンロードサイト：<http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>



<調査委託者>

林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室山村振興指導班

森林・山村多面的機能発揮対策の web サイト（林野庁HP内）：

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/tamenteki.html>

貴団体の主な活動内容について教えてください。

当てはまる選択肢**すべて**にチェックを入れてください。

- ① 間伐・除伐作業
- ② 草刈り
- ③ 林内清掃
- ④ 自然観察会
- ⑤ 森林セラピー
- ⑥ レクリエーション活動（キャンプ・ハイキング等）
- ⑦ 特用林産物（きのこ・薪・炭・山菜等）の採取・生産
- ⑧ 地域の特産物の製造・開発
- ⑨ 地域の景観づくり
- ⑩ 生物多様性の保全活動（外来種駆除・希少種保護等）
- ⑪ 環境教育活動（森林を活用した体験学習等）の実施
- ⑫ その他（下の自由記述欄にご回答をお願いします）

「⑫その他」の□に✓をした方は、活動の内容について具体的に教えてください

貴団体の活動目的について教えてください。

当てはまる選択肢**すべて**にチェックを入れてください。

- ① 景観を良くしたい
- ② 地域コミュニティの維持・活性化に貢献したい
- ③ 地球温暖化防止に貢献したい（大気中のCO₂を減らしたい）
- ④ 地域の生物多様性を守りたい
- ⑤ 森林から得られる資源（木材、きのこ等）を活用したい
- ⑥ 森林の鳥獣被害を軽減したい
- ⑦ 農地等（森林以外の場所）における鳥獣被害を軽減したい
- ⑧ 森林に隣接する道路を安心して通れるようにしたい
- ⑨ 森林が有する水源涵養機能を守りたい
- ⑩ 森林で地滑りや土砂流出等の災害が発生しないようにしたい
- ⑪ 道路、住宅、農地等への樹木や竹の倒伏・侵入の被害を防ぎたい
- ⑫ 活動に関係する人々の交流を深めたい
- ⑬ 森林を利用した教育活動や自然体験活動を行いたい
- ⑭ 森林に関わる雇用を創出したい
- ⑮ 森林に関わる取組と農業との連携を進めたい（肥料づくり等）
- ⑯ その他（下の自由記述欄にご回答ください）
- ⑰ 特に目標とすることはない

「⑯その他」の□に✓をした方は、活動目的について具体的に教えてください

Q 3 | 地域外の方の参加状況

貴団体の活動への地域外の方の参加状況を教えてください。

※ 「地域外の方」とは「大字」単位で見て、活動対象地の集落や活動対象地に隣接する集落に居住していない方をいいます。

当てはまる選択肢 **1つ** にチェックを入れてください。

- ① ほぼ 100%が地域外の方である
- ② 75%以上 99%未満程度が地域外の方である
- ③ 50%以上 75%未満程度が地域外の方である
- ④ 25%以上 50%未満程度が地域外の方である
- ⑤ 地域外の方は 25%未満である

Q 4 | 地域外の方の参加の促進

地域外の方の参加を促すために行っている活動等（イベントの開催、情報発信等）はありますか。

当てはまる選択肢 **1つ** にチェックを入れてください。

- ① はい
- ② 地域外の方の参加を促すための活動ではないが、活動を実施した結果、地域外の方の参加が増えた活動がある
- ③ いいえ（5 ページの Q6 に移動してください）

Q 5 | 地域外の方の参加の促進

Q 4の質問で、①はい、②地域外の方の参加を促すための活動ではないが、活動を実施した結果、地域外の方の参加が増えた活動がある、と回答された団体にお伺いします。

地域外の方の参加を促すための活動、もしくは地域外の方の参加が増えた活動について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 森林を活用したイベントの開催
- ② H P等のwebによる情報発信
- ③ ダイレクトメールの発送
- ④ 情報誌や広報誌での掲載、配付
- ⑤ 参加者の口コミ
- ⑥ その他（下の自由記述欄にご回答ください）

「⑥その他」の□に✓をした方は、地域外の方の参加を促すための活動や、地域外の方の参加が増えた活動について具体的に教えてください。

Q 6 | 森林・山村多面的機能発揮対策交付金について

林野庁では、森林が有する多面的機能の発揮に向け、地域住民等による森林の保全管理活動等の取組を、市町村等の協力を得て支援しています。その支援策として「**森林・山村多面的機能発揮対策交付金**」（以下「本交付金」）を交付していますが、本交付金についてご存知かどうか教えてください。 ※本交付金の概要は、同封のパンフレット及びHP（アンケート表紙に記載のURL、もしくは「森林・山村多面的機能発揮対策交付金 林野庁」で検索）をご欄ください。

当てはまる選択肢 1つにチェックを入れてください。

- ① 本交付金の名前は聞いたことがあるが、内容はよく知らない
- ② 本交付金の内容を知っており、本交付金を活用したことがある
- ③ 本交付金の内容を知っているが、本交付金を活用したことがない
- ④ 本交付金の存在を知らない（7ページのQ9へ移動してください）

Q6の質問で、①本交付金の名前は聞いたことがあるが、内容はよく知らない、②本交付金の内容を知っており、本交付金を活用したことがある、または③本交付金の内容を知っているが、本交付金を活用したことがない、と回答した団体にお伺いします。

「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」をどのようにして知ったのか教えてください。

当てはまる選択肢**すべて**にチェックを入れてください。

- ① 林野庁のweb サイト
- ② 都道府県のweb サイト
- ③ 市町村のweb サイト
- ④ 林野庁のリーフレット（チラシ）
- ⑤ 都道府県の広報誌
- ⑥ 市町村の広報誌
- ⑦（本交付金事業を運営する）地域協議会からの紹介
- ⑧ 知人からの紹介
- ⑨ 市町村からの紹介
- ⑩ その他（下の自由記述欄にご回答ください）

「⑩その他」の□に✓をした方は、どのようにして知ったのか具体的に教えてください

Q 8 | 本交付金を申請しない理由

Q6の質問で、①本交付金の名前を聞いたことがあるが、内容はよく知らない、または③本交付金の内容を知っているが、本交付金を活用したことがない、と回答した団体にお伺いします。本交付金の取得の申請をしていない理由について教えてください。

当てはまる選択肢**すべて**にチェックを入れてください。

- ① 現在行っている活動内容が本交付金に係る活動ではない
- ② 本交付金とは別の交付金・助成金を活用している
- ③ 会費・寄付等で賄える範囲の活動を実施している
- ④ 存在は知っているが、詳しい内容を把握する機会がなかった
- ⑤ 申請手続きや申請書類がわかりにくい
- ⑥ 会計処理が大変そう
- ⑦ 報告書等の書類作成がわかりにくい・大変そう
- ⑧ その他（下の自由記述欄にご回答ください）

「⑦その他」の□に✓をした方は、本交付金を申請しない理由について教えてください

Q 9 | 本交付金の活用について

Q6の質問で、④本交付金の存在を知らない、と回答した団体にお伺いします。本交付金に対する関心や今後の対応等を教えてください。

当てはまる選択肢 **1つ**にチェックを入れてください。

- ① 内容を詳しく知りたい
- ② 関係者間で情報共有したい
- ③ （本交付金事業の申請窓口である）地域協議会に問い合わせをしたい
- ④ 交付金を申請する必要性は今のところない
- ⑤ あまり関心がない
- ⑥ よくわからない

本交付金は、里山林の保全管理や資源を活用するための活動に係る、人件費、燃料費、傷害保険、賃借料、ヘルメットや手袋等の消耗品費等の用途に対して定額で支援を行っていますが、地域外の方の参加を促す活動のために、どのようなことが支援の対象となると活動の促進につながると思われますか。

当てはまる選択肢 **1つ** にチェックを入れてください。

- ① 対象となる森林におけるイベントの準備・開催に必要な人件費
- ② 対象となる森林におけるイベントの準備・開催に必要な消耗品の購入費
- ③ 対象となる森林におけるイベントの開催に必要な車両（マイクロバス等）のレンタル料
- ④ 情報発信のためのHP作成経費
- ⑤ 情報誌等への掲載や広報誌の作成・配付のための経費
- ⑥ その他（下の自由記述欄にご回答ください）

「⑥その他」の□に✓をした方は、地域外の方の参加を促す活動のためにどのようなことが支援の対象になると活動の促進につながるか具体的に教えてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料 4 普及セミナー配布資料

令和2年度
森林・山村多面的機能發揮対策交付金

活動事例集



林野庁



活動事例集



掲載団体一覧

活動組織名（活動場所）	活動タイプ				掲載ページ
	里山	竹林	資源	機能	
苫東・和みの森運営協議会（北海道苫小牧市）	●				3 - 4
一般社団法人 名取エコの森 （宮城県名取市・岩沼市）	●	●	●		5 - 6
長岡の森ワーキンググループ（栃木県宇都宮市）	●				7 - 8
松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」 （千葉県松戸市）	●	●			9 - 10
鎌倉常盤山の会（神奈川県鎌倉市）	●	●			11 - 12
西沢川森づくりの会（愛知県新城市）	●		●		13 - 14
特定非営利活動法人 ひとつもりデザイン研究所 （京都府京都市北区・右京区）	●	●	●		15 - 16
丹治里山保全会（兵庫県多可町）	●		●		17 - 18
竹の駅あきたかた（広島県安芸高田市）	●	●	●	●	19 - 20
里山復帰（福岡県行橋市）	●	●			21 - 22

活動場所



苫東・和みの森運営協議会

(活動場所：北海道苫小牧市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●			



活動の経緯

平成19年6月、苫小牧東部地区（苫東）に天皇皇后両陛下（現上皇皇后陛下）をお招きし、第58回全国植樹祭が開催されました。しかし、その跡地である森の利活用方法については、確定していませんでした。

そこで、この場所が森林のもつ多面的な機能を継続して享受できる場となるよう、必要な整備活動を推進していく「苫東・和みの森運営協議会」を設立しました。



イベント参加者との集合写真

活動の内容

「苫東・和みの森運営協議会」は、「公益社団法人北海道森と緑の会」、「株式会社苫東」、苫小牧市、北海道、地域関係者などの団体・個人を会員として構成されています。本交付金を使った活動としては、会員による苗畑管理、枯損木の除去、間伐、枝打ちなどの森林整備が中心となっています。

また、この森林をさらに有効活用できるよう、他の助成金なども活用しながら、親子参加型の森づくりイベントや、森林整備体験活動なども行っています。



活動地の森林の様子

特徴的な取組

幼児とその保護者、車いすユーザーなど、様々な人たちが森林に親しむことができる場と機会を提供することを心がけています。林内からの材の搬出については、化石燃料の使用や重機の搬入などをなるべく控え、ばん馬による集積・運搬など、環境に優しく林床を傷めない方法で行っています。



間伐作業



伐採木の後処理

活動の成果

森づくりと言うと、木を植えることが着目されがちですが、植えて終わりではなく、その後の管理が大切です。苫東・和みの森運営協議会では、こうした管理を「植えない森づくり」と称して、その意義を市民に伝えています。

また、森づくりを通じた森林環境教育・研修活動の機会を増やしていくことで、市民の森づくりへの理解が深まるとともに、お母さんたちが主体となった活動（自主保育型森のようちえんの設立、自然体験指導者団体の設立）など、地域に新たなコミュニティの輪が広がってきました。

こうした活動を通じ、年間延べ1,000人もの人たちが森の整備と森林環境教育を楽しむ場として、この地を訪れるようになりました。

今後の活動

令和3年には、この場所で全国育樹祭が予定されています。また、来年以降も継続して、市民・利用者による森林管理を実行していきます。

その他、胆振地域以外の人たちを対象とした林業体験活動の支援、修学旅行生やインバウンドの受け入れ、北海道外の森のようちえんの団体との連携、企業の研修の場としての利用などを通して、今後も引き続き、教育的効果が高く、人々の交流や地域コミュニティの維持・活性化に役立つような森の管理活動を展開していきます。



ばん馬による搬出作業



親子参加型の森づくり



整備した森での森林体験活動



子どもたちと馬との森づくり協働作業

【問い合わせ先】	苫東・和みの森運営協議会
電話番号	0144-82-7860
メールアドレス	tomatounagominomori@gmail.com

一般社団法人 名取エコの森

(活動場所：宮城県名取市・岩沼市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●	●	



活動の経緯

名取市および隣接する岩沼市は、集落住民の高齢化にともない、放置竹林が増加し、竹林、里山が荒廃してきました。そこで、地域住民と協働で「名取エコの森」を設立し、竹林の管理、森林の整備、特産物であるタケノコの生産、およびこの地域本来の多様な生物が生息する空間づくりなどを進めています。



活動メンバー集合写真

活動の内容

「名取エコの森」の主な活動は、竹の間伐や除伐、伐採竹の集積、処理場までの運搬です。細かい枝は、本交付金を活用して購入したチップパーで処理後、竹林へ敷設したり、土壌改良剤として近隣農家などに提供したりしています。



活動地の状況（遠景）

当団体では、放置・侵入竹林の初期段階の整備後、所有者の意向に応じ、継続的な維持管理や、タケノコや竹炭などの生産・販売の支援を行うことなどを通じて、地域の豊かな資源を有効活用することによって地域の活性化につながる土台づくりを進めています。



作業道の整備

特徴的な取組

「名取エコの森」で竹林の初期段階として、3年間程度の作業（密集した状態での竹林伐採・作業道の整備・伐採竹の処理など）を行った後、地権者・関係者が主体的に関われるところについては、管理を引き継いでいます。

管理を移行した場所では、地権者自らが主体的に行う継続的な手入れを通じて、美しい竹林景観の維持を行います。地権者等へ管理を移行した場合は、別の放置竹林の整備に移ります。



管理作業

活動の成果

竹林整備をすることによって、竹林の所有者だけでなく、隣接した医療施設や稲作農家などからも喜ばれ、地域住民の竹林整備や景観保全に対する関心が高まってきました。

また、放置竹林をタケノコの生える竹林に変えていくことで、タケノコ増産につながり、土地所有者から理解が得られ、地域住民の主体的な管理につなげていくことができました。

私たちの活動は口コミなどで広がり、積極的な広報はしていないにもかかわらず、今も多くの整備依頼が寄せられています。



伐採した竹の搬出



整備後の竹林内の様子



伐採した竹で作った竹炭



整備後の竹林内の様子

今後の活動

竹林管理の意義や利用の可能性について、より多くの人に知ってもらうため、竹林の保全管理の活動を継続して行い、地域の里山景観の保全に貢献していきたいと考えています。あわせて、竹について関心をもつ多くの人と連携し、伐採した竹の活用方法について、地域の特性を踏まえて検討し、新たな活動へと進めていきます。

【問い合わせ先】	一般社団法人 名取エコの森
電話番号	090-5350-2418 (今野)
ファックス	022-382-3267
メールアドレス	natorieconomori@touhoku.me

長岡の森ワーキンググループ

(活動場所：栃木県宇都宮市)

活動タイプ

里山

竹林

資源

機能



活動の経緯

栃木県宇都宮市にある長岡樹林地は、市の中心部にありながら、昔と少しも変わらない里山の姿を見ることが出来る場所です。

アカマツ混じりのコナラ林を中心とした樹林地内には、ハンノキの生える湿地が広がり、多くの絶滅危惧植物やトウキョウサンショウウオが見られる貴重な自然となっています。

平成3年、都市化の進展にともない、緑地が年々減少して行くことに危機感を抱いた市民と宇都宮市は、「財団法人グリーントラストうつのみや」を設立し、長岡樹林地を第1号の保全契約地として、ボランティアによる保全活動を開始しました。

活動の内容

長岡樹林地では、地形の特色や動植物の生息状況、土地所有者の意向などを総合的に勘案し、①人の手を加えず放置しておく区域、②残すべき立木には手を加えず、巨木の森を目指す区域、③従来の里山と同様の手入れを行い、樹木の若返りを図る区域、の3つに分けることにしました。②③の区域においては、本交付金を活用し、必要な下刈り、枯損木の除去、間伐などの管理作業などを行っています。

特徴的な取組

大きな特徴は、ほぼ毎年、0.15ha 前後の皆伐更新を計画的に行うことで、樹林地内の若返りを図るとともに多様な森林環境を創出していることです。萌芽更新が基本ですが、伐採地に植栽する場合は、樹林地内の実生苗を使用しています。また、樹林地内で落ち葉を



活動メンバー集合写真



中央部にある溜池（松山溜）と伐採跡



コナラ大木処理



落ち葉さらい

集めて腐葉土を作り、隣接する畑でのジャガイモやサツマイモなどの栽培に利用するとともに、伐採した樹木の大部分を薪ストーブ愛好家に譲渡し、浄財を保全活動に活かしています。さらに、定期的にモニタリングを行い、保全活動計画の見直しに役立てています。

活動の成果

かつてはアズマネザサに覆われ、薄暗く地形も判らないような雑木林でしたが、保全活動を行い、樹林地に手を加えることによって林内が明るく、見通しが良くなり、動植物相にも変化が見られるようになりました。多くの動植物が復活してきており、ヤマツツジ、ヤマユリをはじめとした様々な植物が开花、それらを見るために林内を散策する人も増えています。また、保育園や小学校が自然体験や環境学習を目的に定期的にご利用しています。



薪集積所



落ち葉踏み



伐採前



伐採後



下刈り前



下刈り後

今後の活動

近年、高樹齢化にともない樹林地内では倒木、隣接部では危険木が増えています。一定範囲を伐採して林の若返りを図るとともに、「公益財団法人グリーントラストうつのみや」と連携し、高齢化・大径木化にも対応した「森づくり」を実施していきたいと考えています。

【問い合わせ先】 長岡の森ワーキンググループ	
電話番号	028-658-3045 (村岡)
メールアドレス	muraoka@snow.ucatv.ne.jp
ホームページ	http://www.green-trust.jp/base/nagaoka

松戸里やま応援団 「甚左衛門の森の会」

(活動場所：千葉県松戸市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●		

活動の経緯

「甚左衛門の森の会」は、松戸市の残存森林の維持保全を目的として、平成 15 年に結成された「松戸里やま応援団」の 1 グループとして、平成 29 年に発足しました。活動地は、千葉県松戸市の高塚新田地区の一面 0.9ha で、針葉樹と落葉・常緑広葉樹の混交林で、一部マダケ林を交えた変化のある森です。この場所は、主要道路に面し、周囲に畑や民家が点在しています。景観保全、枯損木・風倒木の管理などの観点からも整備が必要と考え、松戸市や地権者とも協議をして、活動を進めていくことにしました。

※ 「松戸里やま応援団」では、市内 10 数か所の森でこうしたグループが活動を展開しており、ボランティア会員はおよそ 200 名にのぼります。

活動の内容

活動前は樹木が密生し雑草木も繁茂して、立枯れ木、倒木も目立ち、不法投棄のゴミが散乱していました。毎月第 2、第 4 水曜日の午前中を定例活動日と定め、雑草木・竹藪の刈払い、密生した立木の間伐、立枯れ木・倒木の除去、観察・作業道の整備などを行っています。現在は令和元年の台風被害からの復旧作業を主体とした活動を行っています。

特徴的な取組

「甚左衛門の森の会」の母体である「松戸里やま応援団」は、松戸市が都市部の貴重な緑を保全することを目指して設立した「松戸市緑推進委員会」の発案で始まった「里やまボランティア入門講座」の受講生によって組織されました。

森林の保全活動は、「松戸ふるさとの森の会（森林地



主な活動メンバー



活動地の入口



作業前のミーティング



活動地内の倒木の様子

権者の会)」の協力を得て「松戸里やま応援団」が行っています。

当会も参画する、この「松戸里やま応援団」では、毎年4月～5月に開催されるイベント「オープンフォレスト in 松戸」でボランティア活動を松戸市民にアピールし、新たな会員の増加に努めています。

活動の成果

林床に繁茂したアオキやヤツデなどの刈払い、密生していた樹木の間伐や除伐を行い、林内に日光が差し込むようになりました。また、除伐・間伐・下刈りなどの結果、ギンランなどの希少植物の生育も確認されるようになっています。

立枯れ木や倒木の処理を続けていたところ、去年の台風により甚大な被害を受け、目下その復旧作業に取り組んでいます。

千葉県里山林保全整備推進地域協議会主催の「チェーンソーによる伐採作業及び安全作業の研修会」も当森を会場に開催されました。専門講師の指導のもと、参加者がチェーンソー使用の安全研修を兼ねて、サワラなどの大径木の伐採技術を習得しました。

今後の活動

台風被害からの復旧作業や森の整備を進め、植物や小動物の豊かな生息地としての里山を復活し、近隣住民や子どもたちが身近な自然を気軽に楽しめる森をつくり、地域の活性化を図りたいと思っています。また、生涯大学、地域活躍塾などの受講生を積極的に受け入れ、里やま体験の場を提供し、市民のボランティア活動への参加の動機づけの機会となればと考えています。



倒木処理作業の様子



台風被害木の処理作業風景



掲示板の設置作業



オープンフォレストの様子

【問い合わせ先】 松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」

電話番号 047-342-6261 (村井)

メールアドレス muraiyukio0727@tb3.so-net.ne.jp

鎌倉常盤山の会

(活動場所：神奈川県鎌倉市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●		

活動の経緯

神奈川県鎌倉市にある国指定史跡北条氏常盤亭跡を囲む常盤山緑地には、都市化による影響を受けていない手つかずの歴史的な資産や、樹齢 200 年を越す山桜や楓などを始めとした豊かな自然が残っています。

近年、真竹や篠竹(アズマネザサ)、孟宗竹が侵入し、固有種の樹木を枯らし、行政による植生管理も追いつかない状況が続いていました。平成 29 年 6 月、常盤山を里山として再生したいという思いをもった人たちが集まり「鎌倉常盤山の会」を発足しました。

活動の内容

「鎌倉常盤山の会」は、神奈川県有緑地 1.3ha (八雲神社裏山、峯山地域) で、本格的な竹林整備活動を行っています。また、同じく神奈川県有緑地である常盤一向堂においても、真竹林の間引きや植生の管理を継続しています。鎌倉市有地では、北条氏常盤亭跡東側ルート・御所ノ内ルートの散策路の整備、御所ノ内地域の森林整備活動を行っています。

また、実生樹による雑木林再生を目指し、雑草木を刈払い、固有の樹木が残っている部分は、樹木から半径 5m の範囲の竹の本数が 3 年間でゼロとなるように侵入竹を除去しています。

特徴的な取組

「鎌倉常盤山の会」は、3 つの団体(「常盤町内会有志」、「鎌倉峯山の会」、「NPO 法人鎌倉みどりのレンジャー」) と連携して交付金を申請し、平成 30 年に本格的な活動を開始しました。

本交付金をきっかけとして、町内会をはじめ、多く



活動メンバー集合写真



活動地の自生樹木



山藤の蔓処理 (八雲神社裏山)



他団体との連携による里山林保全作業

の地域住民が里山林整備に参加し、効果を上げつつあります。

活動の成果

当初、孟宗竹、篠竹の侵入と繁茂が放置されていたために、山全体が荒れ、自生の樹木は瀕死の状態となっていました。しかし、本交付金を活用した竹林などの管理を通じて、生物多様性に富む、明るい森が広がってきました。

地元常盤町内会の森林整備活動への関心が高まり、地域からの参加者が徐々に増えてきました。このことから、昔の常盤山の自然の状況などについて聞く機会が増え、目指すべき里山再生の方向性がより具体的になってきました。



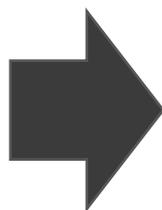
倒木の片付け作業(八雲神社裏山)



活動についての研修の様子



八雲神社トレイル整備前



八雲神社トレイル整備後

今後の活動

住民の高齢化が進んでいるため、4年目以降も活動を継続できるように、次代を担う後継者を育成しながら活動を進めていきます。真竹や篠竹、孟宗竹の駆除を優先し、常盤山の植生の保全と市民による利活用を促進する取組を継続していきたいと考えています。

【問い合わせ先】	鎌倉常盤山の会
電話番号	0467-31-3579
メールアドレス	tokiwakomachi@gmail.com
フェイスブック	https://www.facebook.com/kamakuratokiwayamanokai



西沢川森づくりの会

(活動場所：愛知県新城市)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●		●	

活動の経緯

新城市豊岡地区は、地域面積の80%以上をスギ・ヒノキの人工林が占めています。全国的な課題でもありますが、この地区においても、地域の森林管理に対する関心が薄れてきています。また、相続した山林の境界が不明なことから、森林整備が進められないといった問題も生じています。

このことから、平成 25 年から地区の森林所有者有志が中心となり、新城市の補助事業を活用した森林境界確定を進めてきました。こうした取組の中で、森林の利活用・整備を行っていききたいという声上がり、平成 26 年 3 月に「西沢川森づくりの会」を設立し、本交付金を活用した活動を始めました。

活動の内容

現在の主な活動は、間伐、林道沿いの整備、間伐材の活用（チップ、薪、ボイラー燃料など）です。また、この地区には、昭和 6 年に国の「名勝天然記念物」に指定された「鳳来寺山」の登山道（東海自然歩道）があることから、ハイキングなどのレクリエーション環境向上のために、地域住民と共同で、東海自然歩道に隣接する西沢川沿いを中心に、森林景観の再生・維持活動を実施しています。

特徴的な取組

森林を観光資源として活用して地域を活性化させるため、地域住民を巻き込んだ森林整備を行っています。また、より多くの人たちの活動への参加を促すとともに、安全な森林管理を進めていくため、地元山主向けの講習会（立ち木評価・安全講習会）を、外部専門家な



活動メンバー集合写真



活動地の様子（鳳来寺山の見える風景）



間伐作業



ロープウィンチ集材作業



どを招いて地元で開催しています。

活動の成果

鬱蒼として薄暗かった森林に光が差し込み、木々の間から遠くの景色も見通せるようになってきました。その結果、散歩に訪れるのをためらっていた地区の人たちも足を運ぶようになりました。東海自然歩道沿いを流れる西沢川にも光が入り、減ってしまった魚たちもまた姿を見せるようになり、元気な野鳥のさえずりも聞こえるようになりました。



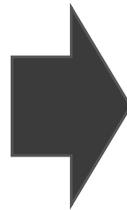
プロット調査



間伐とチェーンソー研修



整備前の様子



整備後の様子

今後の活動

取組開始当初は、森林の超過密状態を解消するため、間伐率を下げることに重点をおいていました。今後は、より適正な状態にしていくのに必要な追加の間伐、林道から見える森林で手を付けていない場所の対応などを中心に、継続的に取り組んでいきたいです。あわせて、伐採木の利活用についても考え、さらなる地域活性化を目指していきます。

【問い合わせ先】 西沢川森づくりの会

電話番号 090-4863-3299 (伊藤)

メールアドレス naoitoh.shintoyo@gmail.com

特定非営利活動法人 ひとつもりデザイン研究所

(活動場所：京都府京都市北区・右京区)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●	●	●	

活動の経緯

京都市北区の左大文字周辺は、かつてはアカマツが広く分布しており、マツ林が形成する美しい景観は、近隣の寺院の庭園などの借景景観となっていました。しかし、マツノザイセンチュウによるマツ枯れの影響で、ソヨゴ、コジイといった常緑広葉樹が生長し、借景景観は大きく様変わりしてきました。

一方、京都市右京区の嵯峨嵐山周辺は、尾根にアカマツ、山裾には竹林、これに稲穂たなびく水田が続く美しい風景が形成され、「歴史的風土特別保存地区」に指定されています。こうした人里に近い里山景観は、地域の人たちの営みとともに維持されてきました。しかし近年、生活様式の変化や高齢化などにともない、現在、その景観の存続が危ぶまれています。



活動メンバー集合写真



活動前の状況（左大文字周辺）

活動の内容

左大文字の民有地の森林を対象に、ソヨゴなどの危険木の伐採、雑草木の刈払いを行い、アカマツが健全に生育できる環境づくりを行っています。また、森林景観の向上と材の利活用の検討も行っています。

枯竹、倒竹の除去と古い竹の伐採などを行いながら、整備後3年を目標としてタケノコが採取できる森林資源利用の場として構築を進めています。また、伐採した竹は、チップ処理により発生した竹チップを作業道へ敷設しています。



活動前の状況（嵯峨嵐山周辺）

特徴的な取組

嵯峨野の竹林は、京都府で絶滅寸前種に指定されている、ホンゴンソウ、ヒナノシャクジョウ、シロシャクジョウなどの植物がまとまって見られることが特徴と



活動地へのアクセス

なっています。しかし、観光地以外の竹林は人の手が入らず荒廃した環境となっており、枯竹、倒竹が目立ち、一定程度の光環境（開空率）を好む、絶滅寸前種の生育環境および景観の悪化が見られます。そのため、管理作業を進めつつ、竹林内の光環境（開空率）や土壌環境なども適宜モニタリングを行うことで、こうした希少種にも適した環境づくりを進めています。



希少種調査

活動の成果

左大文字周辺では、アカマツ林の再生のために常緑広葉樹の除伐などを進めた結果、明るくなった森林環境に、コバノミツバツツジなどの花が見られるようになりました。



希少種（ホンゴウソウ）

また、竹林管理を進めることにより、地域の観光資源（竹林景観）の向上とともに、生物多様性の回復にもつながっています。特に今回の事業実施地は市有林であるものの、財政状況が厳しい中、京都市では十分な管理が行えていないところです。このことから、市からも、環境保全のための協定を結び、当団体や地域住民で管理を行うことへの感謝の声をいただいています。



活動を紹介するイベントの様子

今後の活動

山に入って手入れを行うことの必要性について、より多くの人に知ってもらうため、多様な活動を展開していきます。また、こうした活動を通じて、地域コミュニティのつながりの強化も図っていきます。

また、循環的で継続的な地域づくりを構築するため、嵯峨野の竹林を再生し得たタケノコを使って、京タケノコカレーを作成し、1缶販売ごとに50円の環境保全活動に役立てる取り組みに協力しています。



市販されている京タケノコカレー

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人 ひとつもりデザイン研究所

電話 番号 075-746-3118

メールアドレス hitomorid@gmail.com

丹治里山保全会

(活動場所：兵庫県多可町)

活動タイプ

里山	竹林	資源	機能
●		●	

活動の経緯

丹治集落は、53世帯、人口200名余りの集落で、過疎化・高齢化が急速に進行しています。近年、集落周辺の山林の手入れが行き届かず、耕作放棄された農地も目立つようになってきました。また当集落の人たちの間で古くから続いてきた「日役（ひやく）」という共有地（集落林）などの管理作業も滞り始めました。

当集落には、広葉樹林も多く、その中に、五輪さんの石塔や三善堂（寺院）の跡地などの名所が点在しています。また、近くには町立桜公園もあり、家族連れをはじめ多くの方が利用しています。こうしたことから、「丹治里山保全会」が森林を適切に手入れすることで、周辺からの来訪者にとっても魅力ある里山林としていくこととしました。

活動の内容

繁茂した雑木の除伐や間伐、下刈りなどにより里山景観の改善を図っています。また、伐採木を薪にして近隣施設などで販売しています。

特徴的な取組

集落では、本交付金を活用した活動を通じて、集落林の維持管理を集落住民が主体的に行っています。平成28年から30年の3か年は里山林整備を行い、明るい里山の景観を再生することに注力しました。令和元年からは資源利用にも取り組み、本交付金を活用して購入した薪割機を使って薪を生産し、その販売を主体とした収入で、財源的にも安定した活動を目指しています。



活動メンバー集合写真



段積み講習会



除伐作業



段積み作業

活動の成果

活動には集落住民を中心に 30 名余りが参加しており、この活動を通じて、森林に対する認識が高まるとともに、地域の活性化につながっています。隣接した桜公園の花見、散策や山菜採集などで、集落内外の多くの人を訪れるようになり、地域を代表する癒しの場となりつつあります。集落外の人々との交流を通じた地域づくりにより、集落自治の推進や地域全体の活性化にも寄与しています。

現在、「多可町森林・林業ビジョン」の策定作業が進められています。この中でも本交付金を活用した里山整備を行う団体として「丹治里山保全会」の活動が紹介されるなど、地域における認知度・関心度も高まってきました。



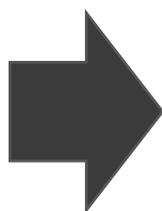
薪割および薪詰め作業



薪詰め作業



現場の状況（作業前）



現場の状況（作業後）

今後の活動

山に入って手入れを行うことの意義について地域で共有できるようになってきたことから、今後も、草刈り・除伐などの継続した整備を展開するとともに、地域コミュニティのつながりの強化を図り、魅力ある里山景観の維持・再生を進めていきます。

【問い合わせ先】 丹治里山保全会

電話番号 0795-36-0153（廣畑）（または 090-5661-9202）

メールアドレス m-hirohata@ares.eonet.ne.jp

竹の駅あきたかた

(活動場所：広島県安芸高田市)

活動タイプ

里山

竹林

資源

機能



活動の経緯

広島県安芸高田市の林野面積率は約 80%であり、里山林などに繁茂する孟宗竹や真竹の管理が大きな課題となっています。この課題を解決するために「竹の駅あきたかた」を発足し、市内の他の団体（5 団体）と連携・協力しながら、本交付金の交付を受けて、市内の竹林管理を進めていくことにしました。

活動の内容

「竹の駅あきたかた」では、主な活動として、放置・侵入竹林の伐採を進めています。伐採竹については、竹チップ・竹パウダー・竹酢液の製造・販売や、竹炭を焼成し新たな利活用の検討を行っています。また伐採竹は、この地域でも深刻な有害獣の防護柵としても活用しています。

あわせて森林整備を安全に行うための講習会や正しい竹林整備のための講演会などの開催、目的別の竹林の仕立て方やそのための整備手法などを広く知ってもらうための研修会などを開催し、地区内で活動する団体の技能向上にも取り組んでいます。

特徴的な取組

広島県安芸高田市で竹林整備を実施する、6つの活動組織との連携・協力のもと、竹林整備に係る事務処理を一本化、装備の共有、講習やイベントの共同開催、人材の相互交流などを進めています。

また竹をキーワードにした産業起こし、地域起こしを実践しています。



活動メンバー集合写真



活動地の様子



竹林の伐採作業



竹林整備研修会の様子

活動の成果

林産資源（竹林）を活用した、新たな商品開発・販売（竹炭生産、国産メンマ生産、高品質タケノコ生産など）を通じて、地域活性化や都市部住民との交流が促進されました。また不在村地主（広島市内、埼玉県など）からも、竹林の管理依頼が来るようになりました。



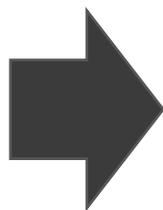
メンマの販売の様子



竹炭の販売の様子



竹林整備作業前



竹林整備作業後

今後の活動

市内の遊休施設などを利用し、多様な竹商材の集荷・生産を行います。また、ネット上で市内住民の竹林整備の要望と、竹林整備ボランティアとのマッチング業務（有償で竹林整備を行う）として、竹林整備ポータルサイトの運営を検討しています。

竹林に親んでもらえるようなイベントの企画・開催や、小中学生に対する環境教育、福祉団体との「竹福連携」を図っていきたいと考えています。

【問い合わせ先】	竹の駅あきたかた
電話番号	090-2295-8375 (谷川)
メールアドレス	hiroyuki15dec@gmail.com
ホームページ	http://akitakatabamboo.com/

<h2 style="margin: 0;">里山復帰</h2> <p style="margin: 0;">(活動場所：福岡県行橋市)</p>	活動タイプ			
	里山	竹林	資源	機能
	●	●		

活動の経緯

この地区は、アカマツ林から遷移した雑木林が広がり、竹林が隣接しています。長年放置されてきた結果、竹（孟宗竹）が雑木林に侵入するとともに、生活道路沿いでは、放置竹林が道路を被うことによる交通障害が発生していました。また、林内への不法投棄の深刻化、景観の悪化、防犯上の懸念など、様々な問題が顕在化し、適切な管理が必要な状況にありました。



活動ボランティアの皆様との集合写真

活動の内容

活動を始めた当初は、重機などを使って、活動地内の作業道の整備を優先的に行いました。現在は、雑木林内の侵入竹の伐採・処理、雑木の除伐や下刈り、風倒木の伐採・処理、竹林の管理（皆伐・間引き）・活用（チップ化・竹炭づくり）などを行っています。



活動地の状況（竹林）

特徴的な取組

フィールド内の植生や地形などを勘案し、「ふれあいの里山」「椿の森」「山桜の森」にゾーン分けし、ゾーンごとの目標や位置づけなどをふまえた管理を進めています。活動地区の一角には、ヤブツバキが群生しています。このほか、ヤマザクラ、クスノキ、シロダモ、コナラ、スダジイなどの大木や、リョウブ、シャシャンボ、ナナメノキ（ナナミノキ）、ネジキ、カクレミノ、ザイツリボク、ミミズバイなども見られます。多様な樹種が生育する生物多様性に富んだ森であることから、この森の魅力を最大限に発揮できるような森林整備を進めています。また、生物多様性の保全などの観点から、あえて人為的な関与を行わない場所も設けています。



チップ化の作業



伐採した竹の運搬作業

活動の成果

住宅地に近い竹林について重機を使って伐採・伐根・搬出を行った結果、周辺の竹の侵入の勢いが著しく弱まってきました。

雑木林の見通しも改善し、明るい森になってきて、エナガの群、アオゲラの姿やフクロウの声も確認できるようになりました。

なお、本交付金を活用して切り出した竹は、北九州の代表的なイベント「小倉城竹あかり」で使用する竹灯籠として活用されています（「小倉城竹あかり」で使用する竹灯籠の材料となる竹の一部は、「里山復帰」の竹林管理活動で出た竹です）。こうしたイベントを通じて、竹林整備への関心が高まっています。



竹林の管理作業



除伐、拡幅して整備した林内作業道



小倉城竹あかりのイベントの様子



活動ボランティアの方々

今後の活動

これまでに伐採した風倒木や枯損木などでまだ林内に残っているもののうち、今後の作業の支障になりそうなものは、玉切りしたうえで搬出を進めます。また、林内散策路の整備を進め、森林の魅力をより多くの人に知ってもらう場を創出していきます。あわせて、将来を担う子どもたちが、森林と気軽にふれあい楽しめる場として、活動地の一角に、「アスレチックの森」の整備を進めていきます。こうした活動を、都市部からのボランティアなども積極的に受け入れながら実施していきます。

【問い合わせ先】	里山復帰
電話番号	090-3733-5051（有松）
フェイスブック	https://www.facebook.com/groups/409793403094855
メールアドレス	shuichi@arimatsu.jp



令和2年度

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集

発行 林野庁

作成 公益財団法人 日本生態系協会

令和2年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業

アンケート結果概要

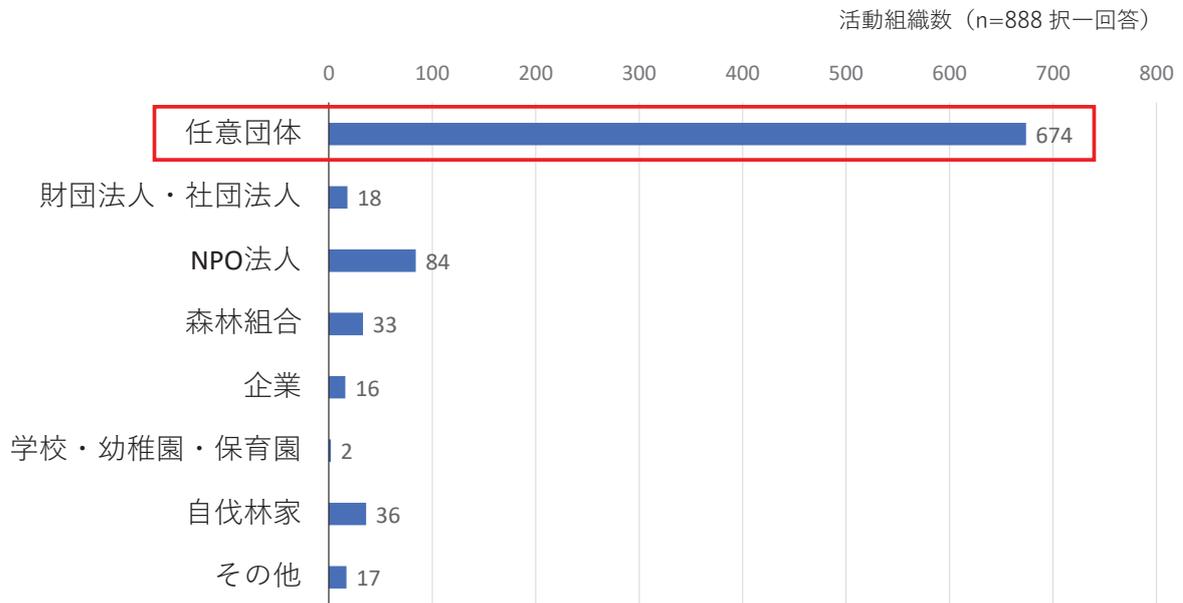
令和3年2月12日
(公財) 日本生態系協会

(1) アンケート調査概要

1. 地域協議会向けアンケート	送付日： 令和2年8月18日（火） 送付方法： 郵送およびEメール ※Eメールでは、ダウンロード先についての案内を送付 回収数： 45通（回収率：100%）
2. 活動組織向けアンケート	送付日： 令和2年9月3日（木） 送付方法： 郵送およびEメール ※Eメールでは、ダウンロード先についての案内を送付 回収数： 888通（回収率：65.3%）

(2) 活動組織の概要

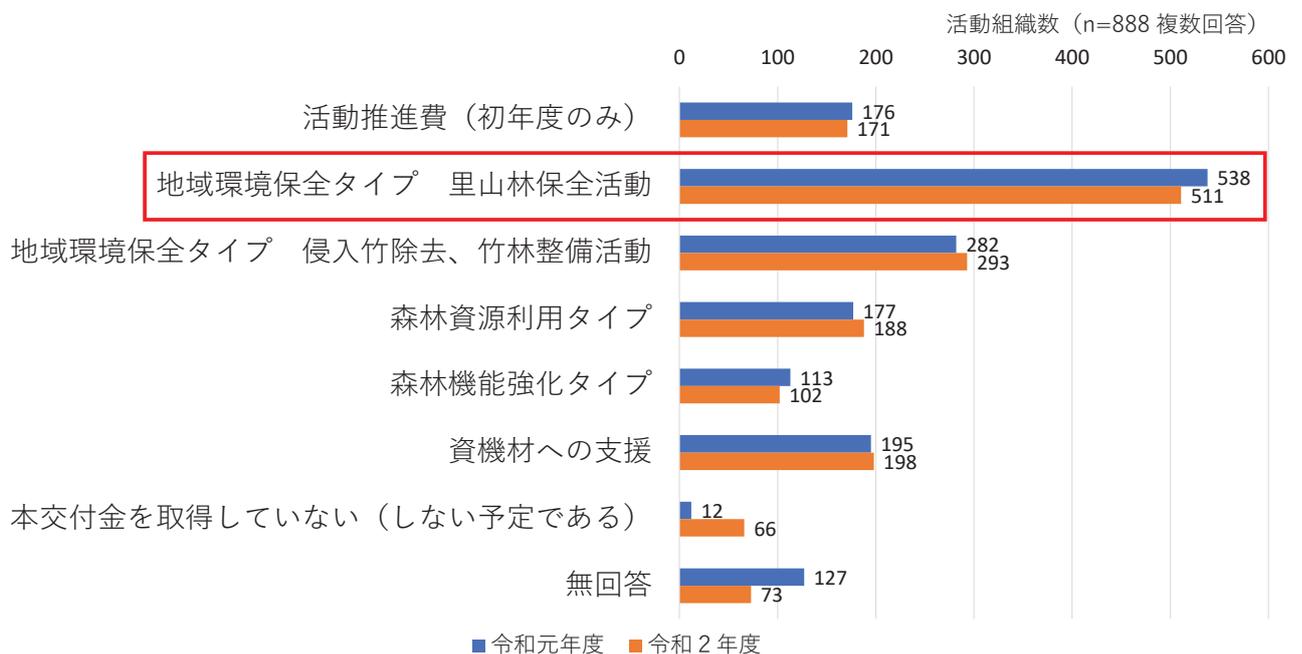
①活動組織の形態（活動組織向けアンケート）



3

(2) 活動組織の概要

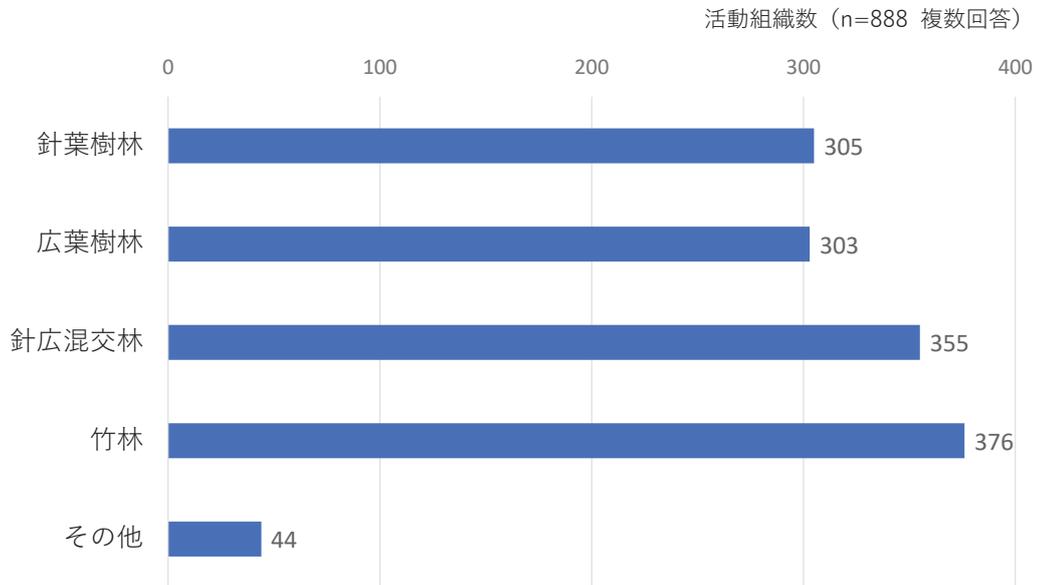
②取得している交付金の内容（活動組織向けアンケート）



4

(2) 活動組織の概要

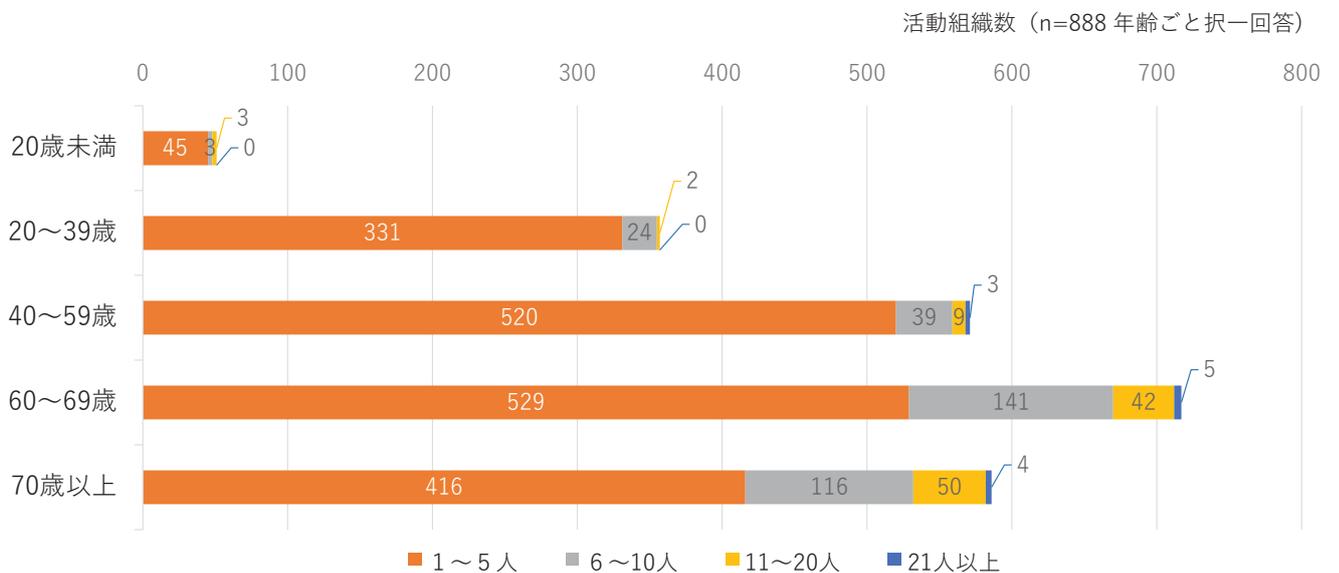
③活動対象地の森林（活動組織向けアンケート）



5

(2) 活動組織の概要

④活動組織の年代別参加状況（活動組織向けアンケート）



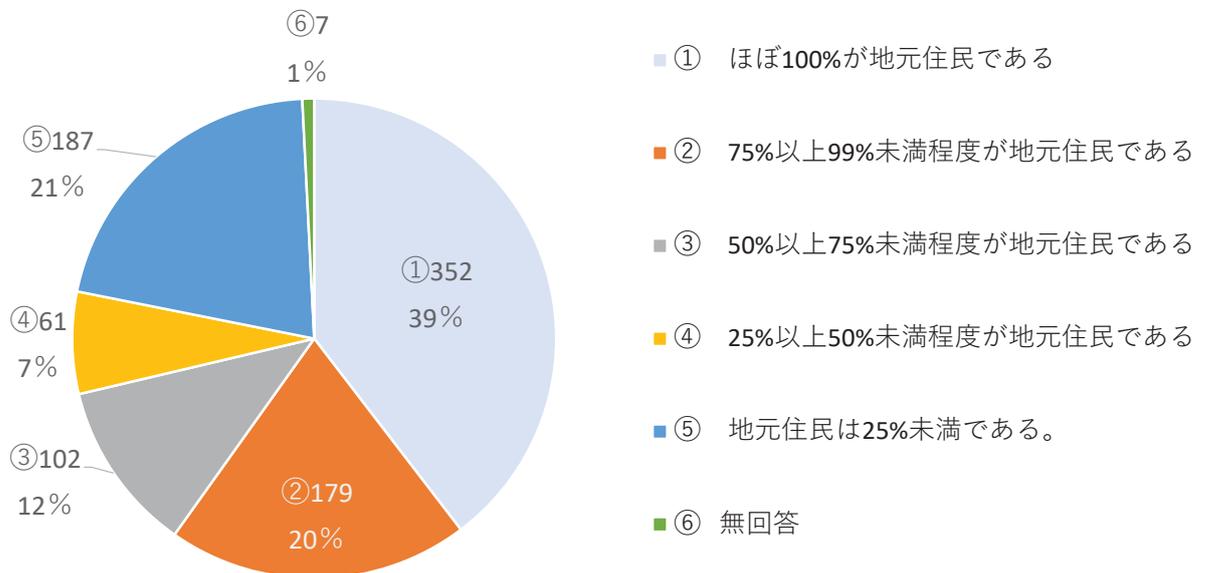
※「参加なし」および「無回答」は図からは除外

6

(2) 活動組織の概要

⑤活動組織の参加者の属性（活動組織向けアンケート）

活動組織数（n=888 択一回答）



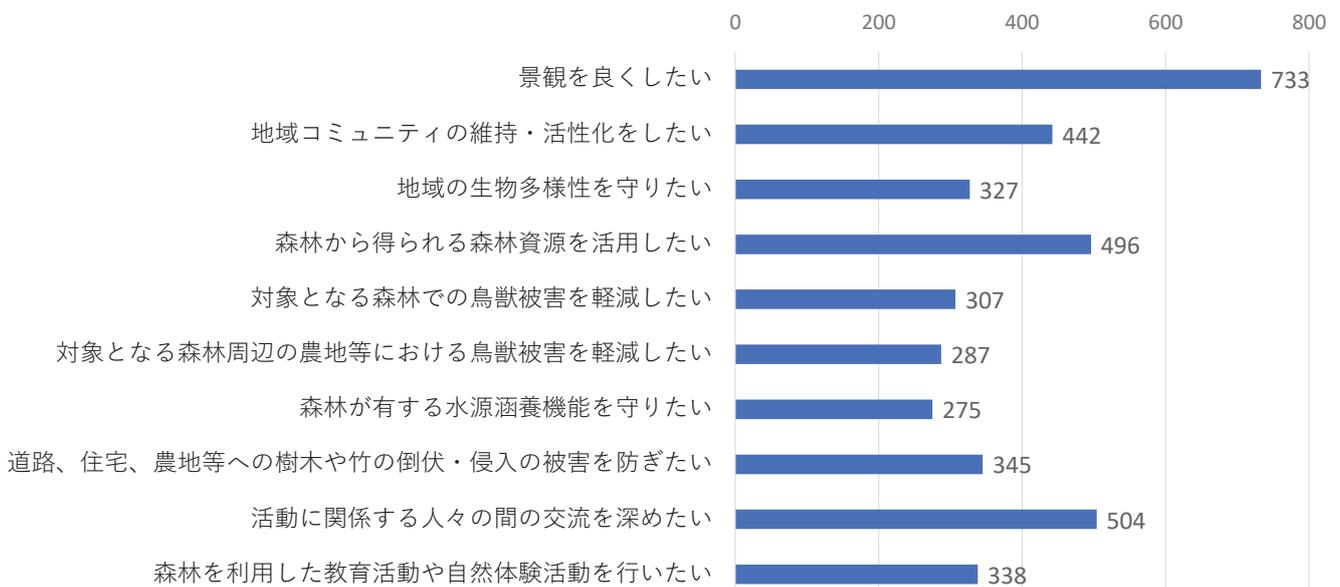
※数字は活動組織数

7

(2) 活動組織の概要

⑥活動の目的（活動組織向けアンケート）

活動組織数（n=888 複数回答）

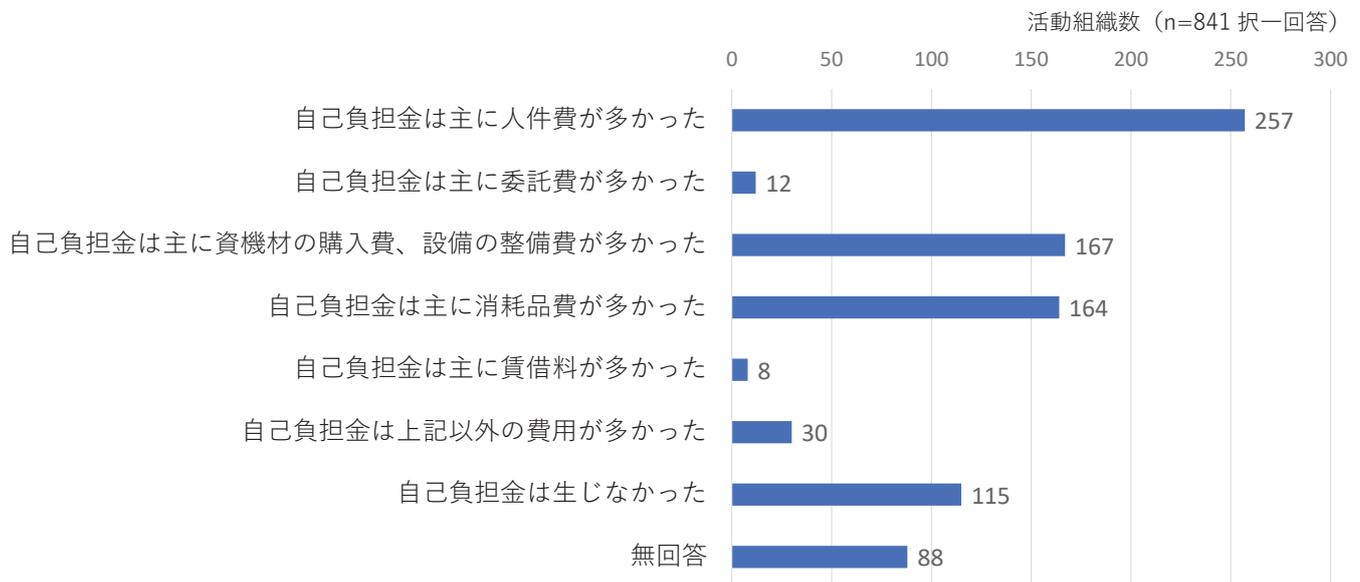


※回答数の多い上位10の回答を抽出

8

(2) 活動組織の概要

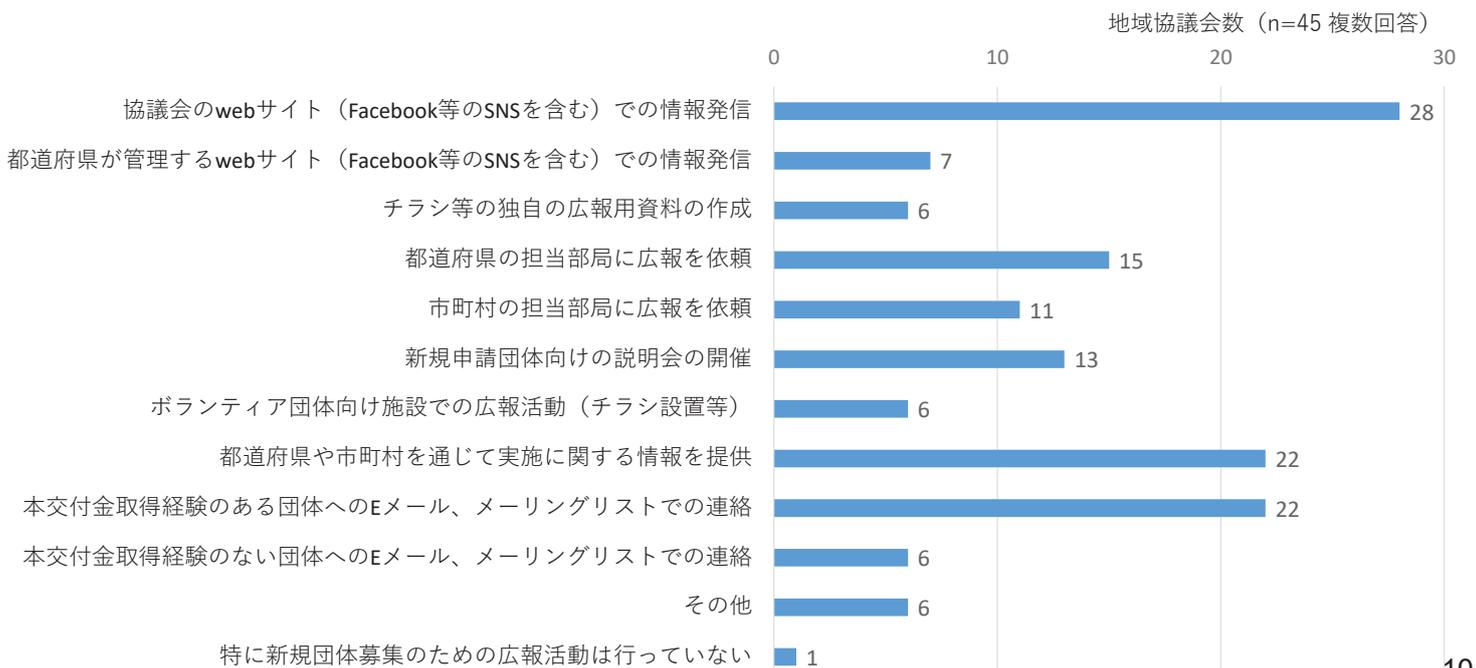
⑦自己負担の状況（活動組織向けアンケート）



9

(3) 募集段階

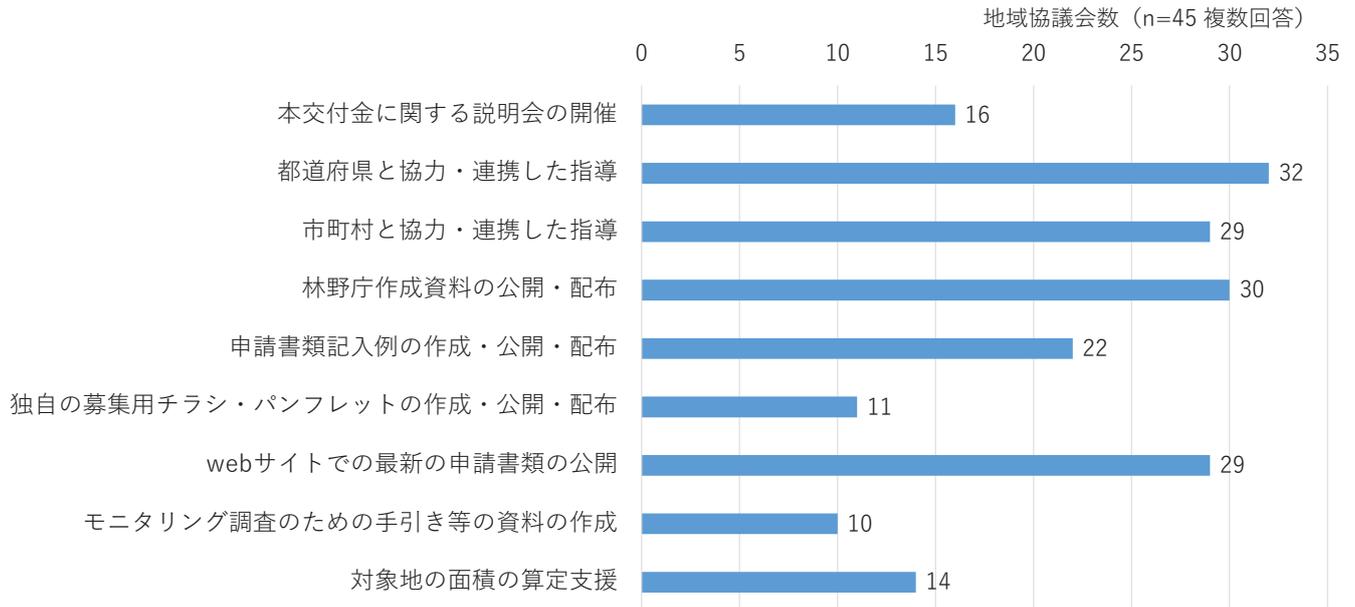
⑧募集に当たっての広報手段（地域協議会向けアンケート）



10

(3) 募集段階

⑨申請団体が応募しやすくするために令和2年度に実施した支援（地域協議会向けアンケート）

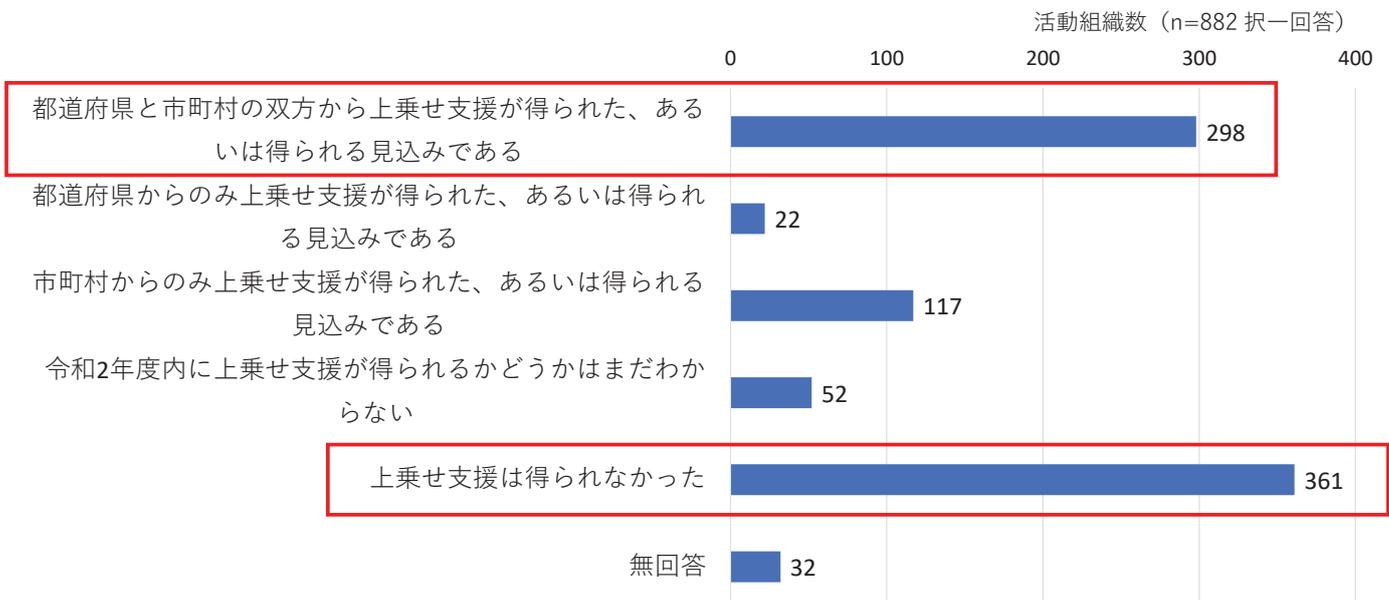


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

11

(4) 上乗せ支援

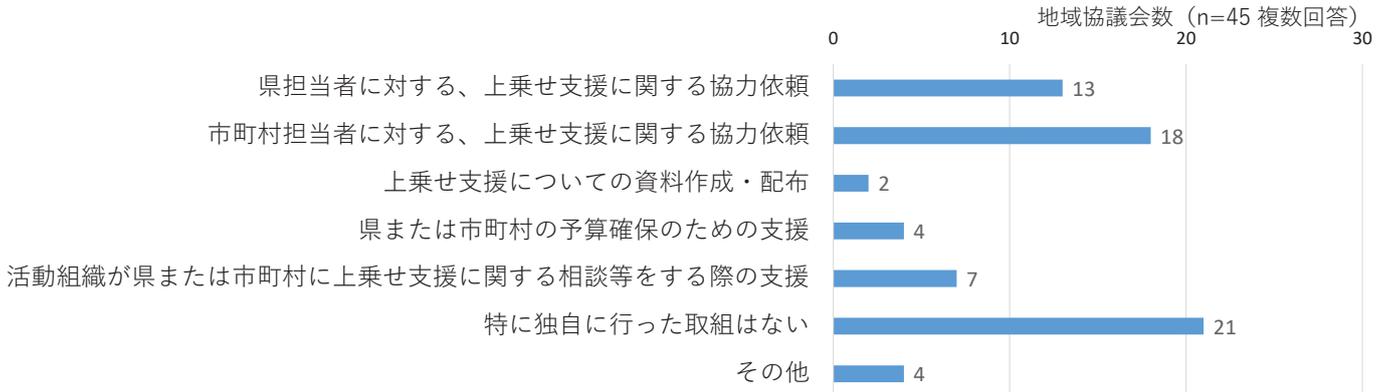
⑩上乗せ支援の状況（活動組織向けアンケート）



12

(4) 上乗せ支援

⑪ 上乗せ支援を促すための取組（地域協議会向けアンケート）



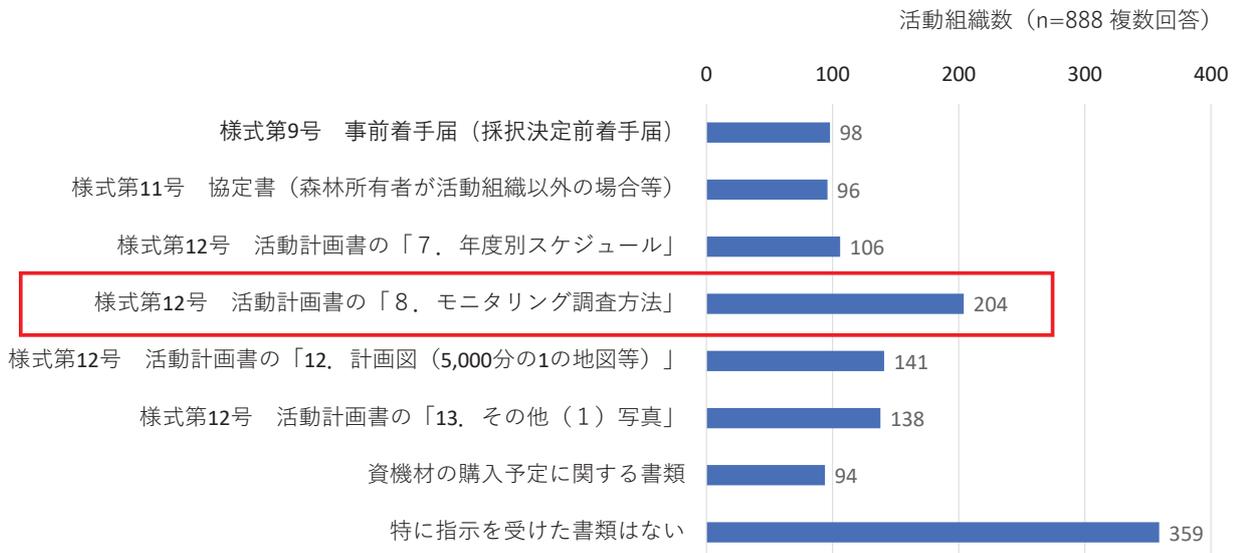
上乗せ支援を受けるのに効果があると思われるまたは効果があった主な取組例

- ・活動組織が申請前に市町村担当課に申請意思・活動内容・活動箇所について説明を行うように指導
- ・予算編成時に県および市担当者と連絡調整を行う
- ・地方自治体を対象として上乗せ支援に関する説明会を実施
- ・次年度の申請要望を把握し、地方自治体へ予算確保を要望

13

(5) 申請段階

⑫ 申請段階で指導を受けた書類（活動組織向けアンケート）

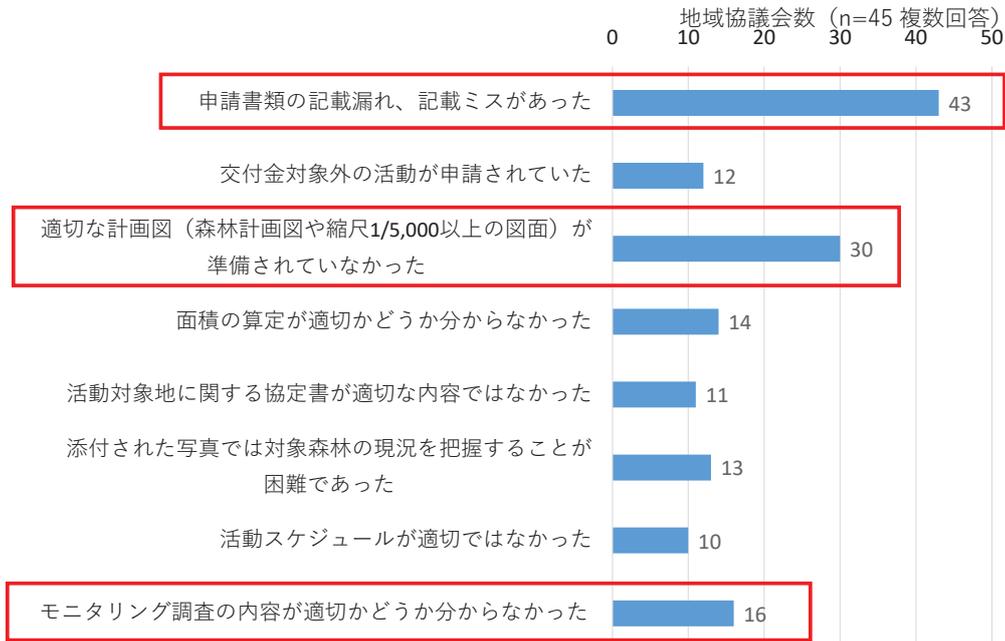


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

14

(5) 申請段階

⑬申請段階における指導・修正内容（地域協議会向けアンケート）

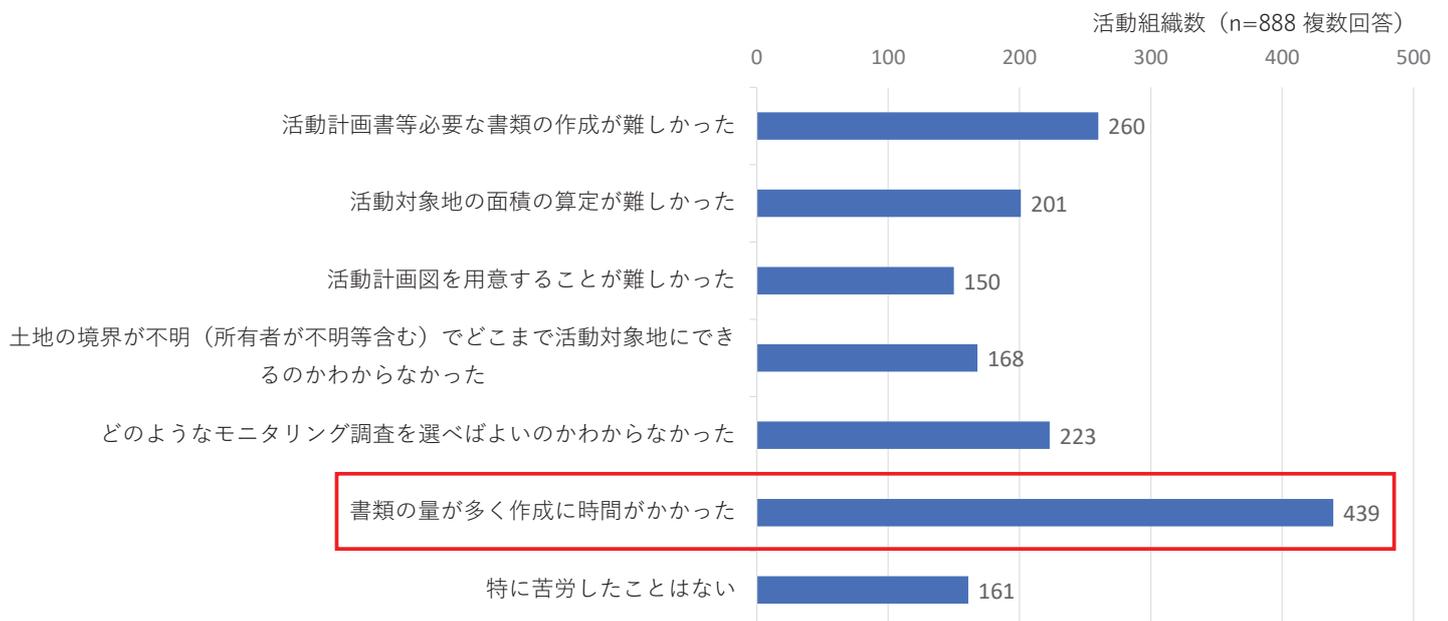


※回答団体数が10協議会を超えるもののみ抽出

15

(5) 申請段階

⑭申請段階で苦労したこと（活動組織向けアンケート）

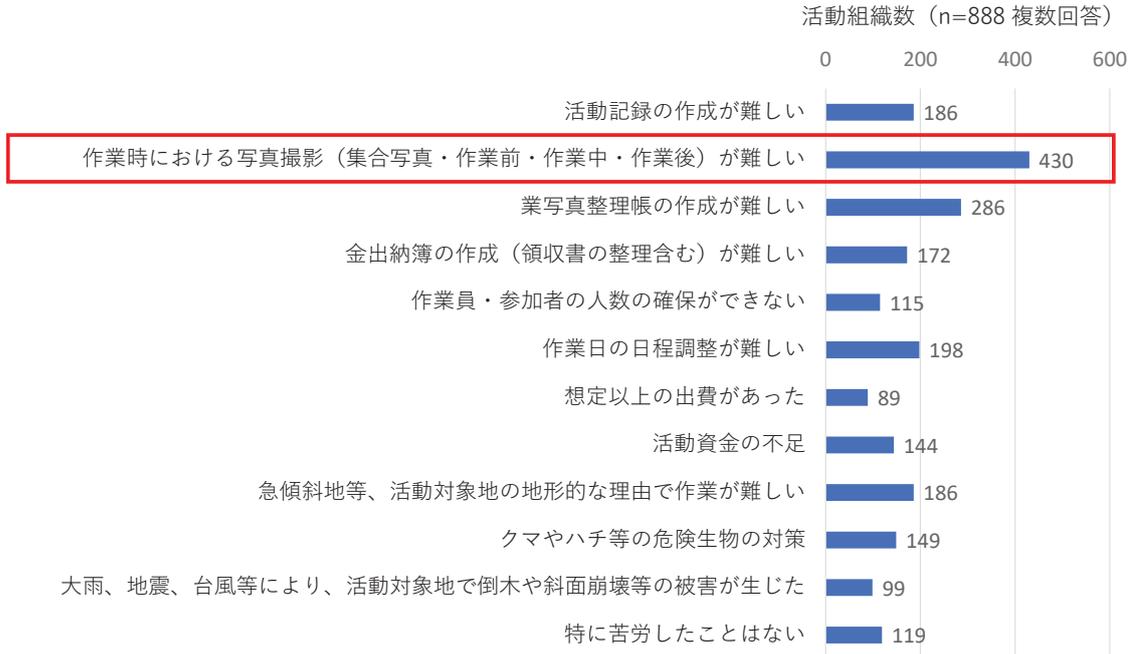


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

16

(6) 活動実施段階

⑮活動実施段階で苦労したこと（活動組織向けアンケート）

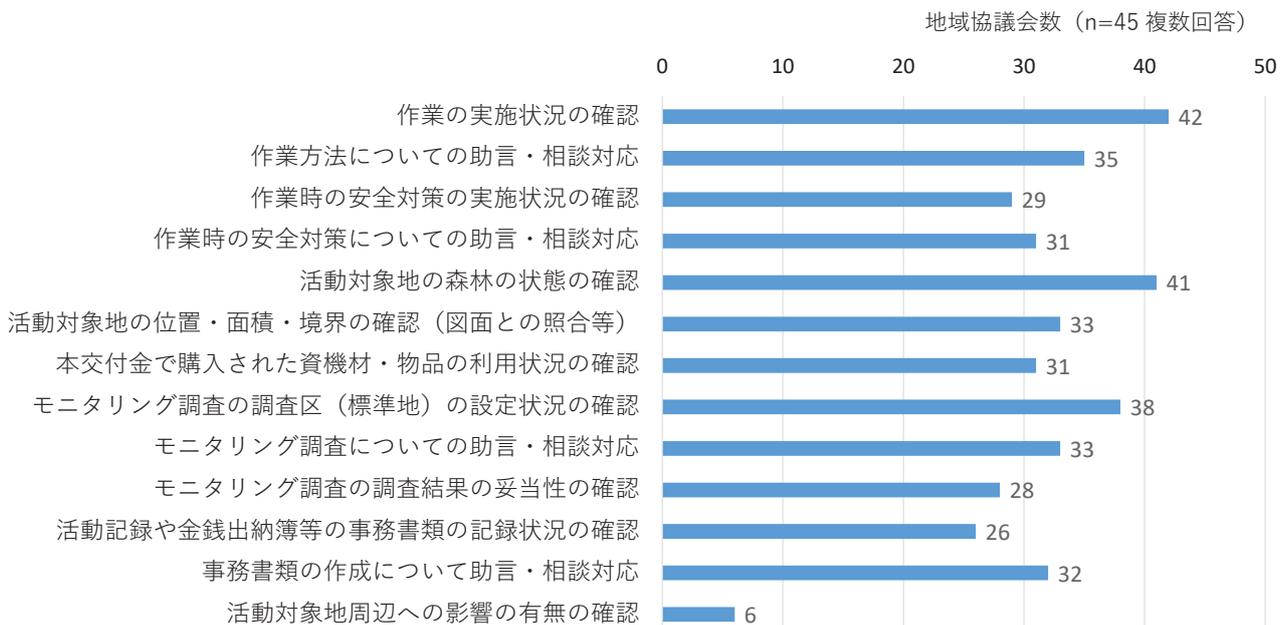


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

17

(6) 活動実施段階

⑯現地調査で確認すること（地域協議会向けアンケート）

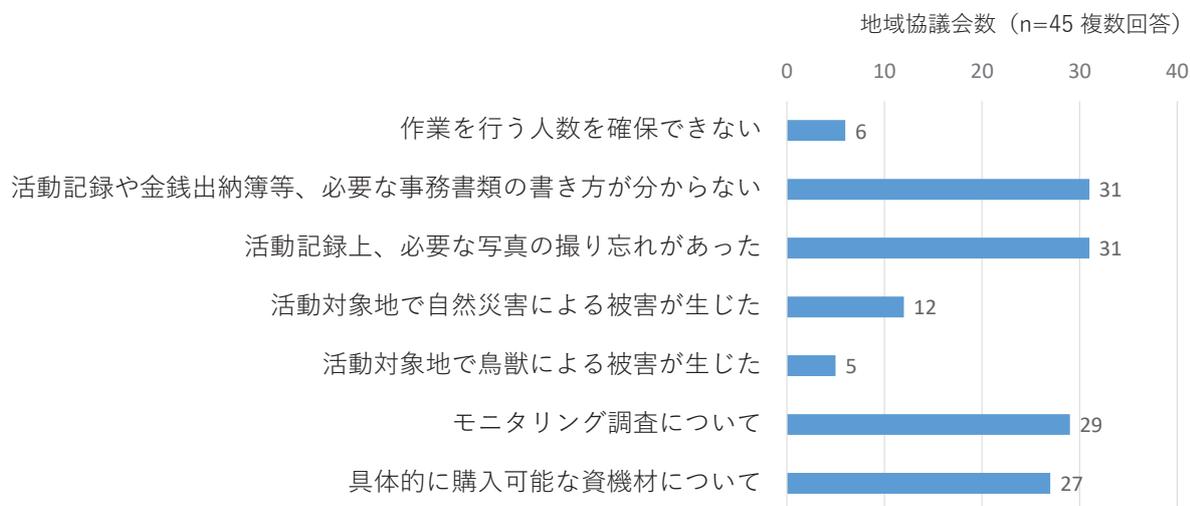


※回答の比率が50%を超えるもののみ抽出

18

(6) 活動実施段階

⑰活動実施段階で地域協議会に寄せられた相談（地域協議会向けアンケート）

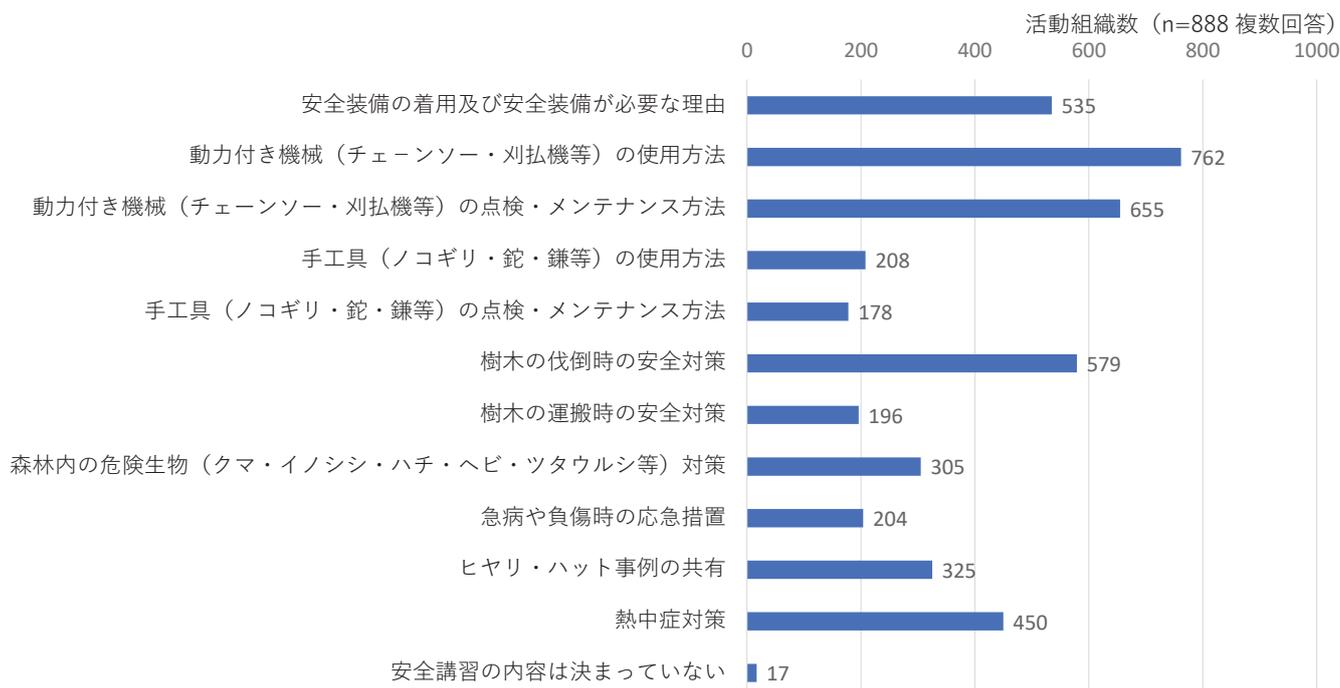


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

19

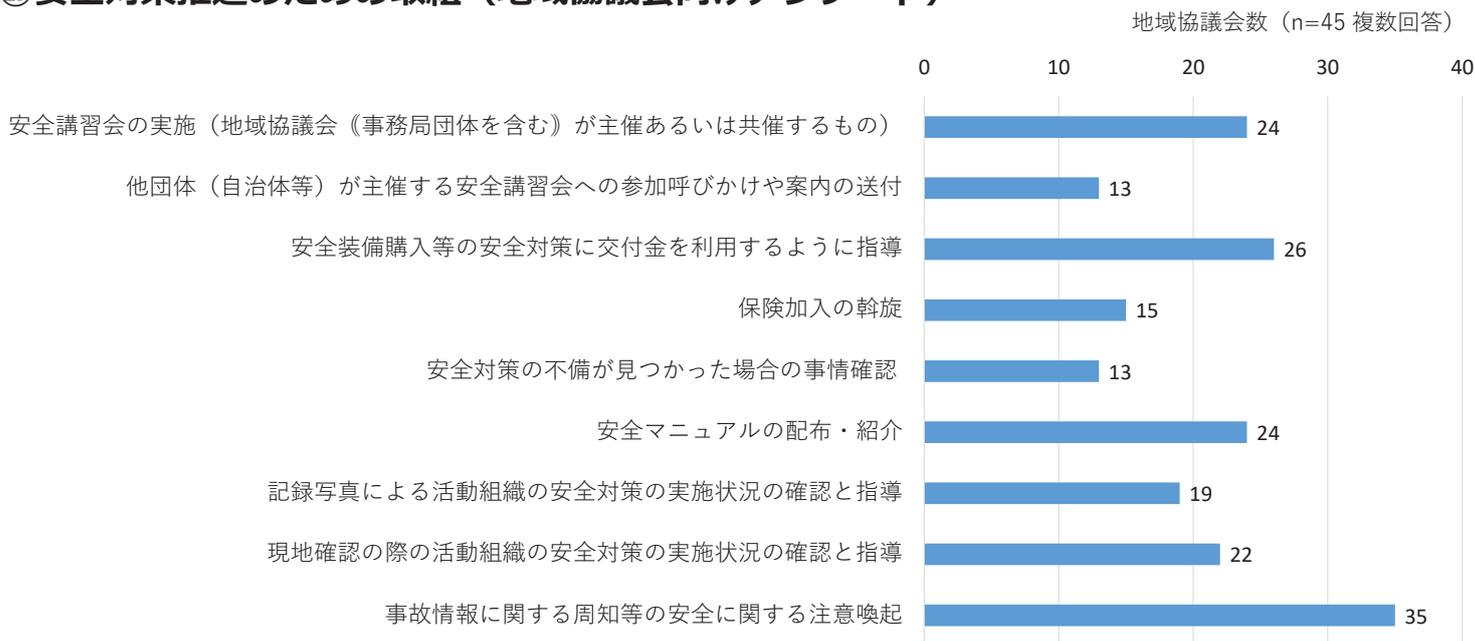
(7) 安全対策について

⑱安全講習の内容（活動組織向けアンケート）



(7) 安全対策について

⑱ 安全対策推進のための取組（地域協議会向けアンケート）

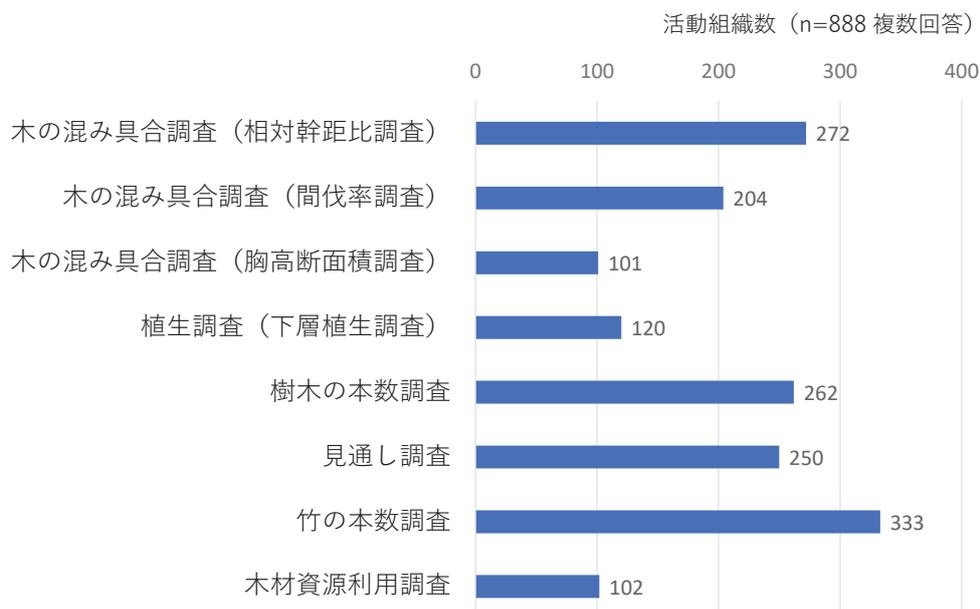


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

21

(8) モニタリング調査

⑳ 実施しているモニタリング調査（活動組織向けアンケート）

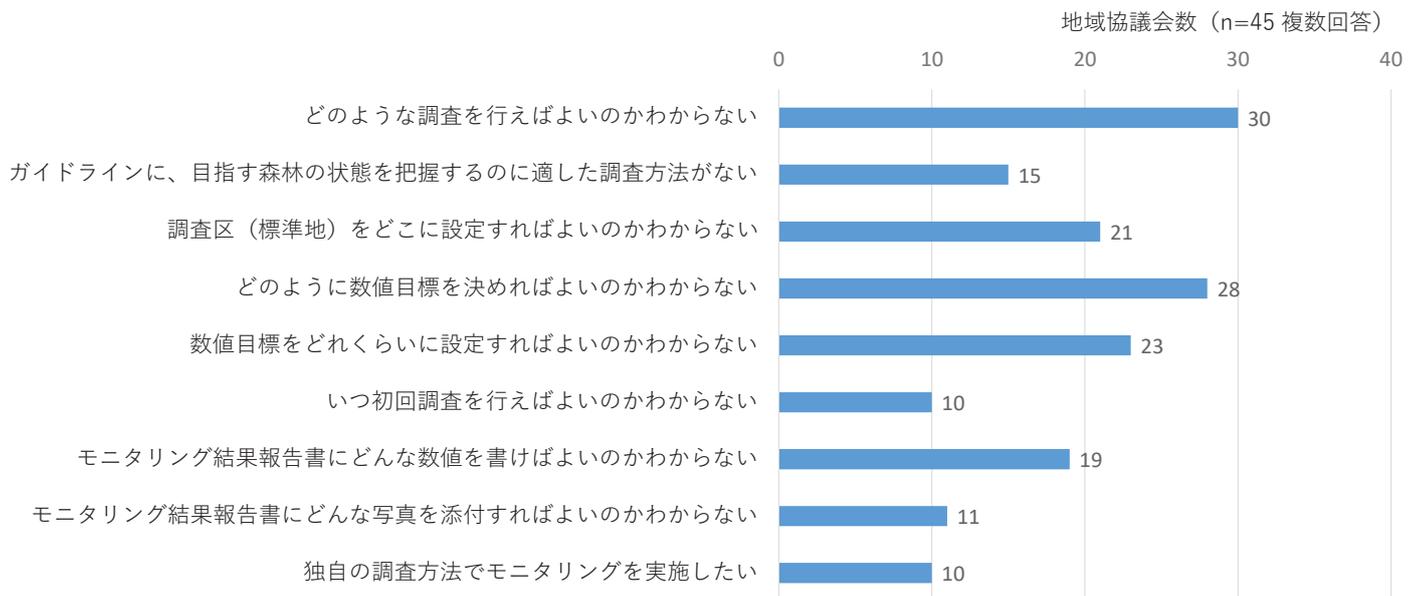


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

22

(8) モニタリング調査

㉑ モニタリング調査に関連して地域協議会に寄せられた問い合わせ（地域協議会向けアンケート）

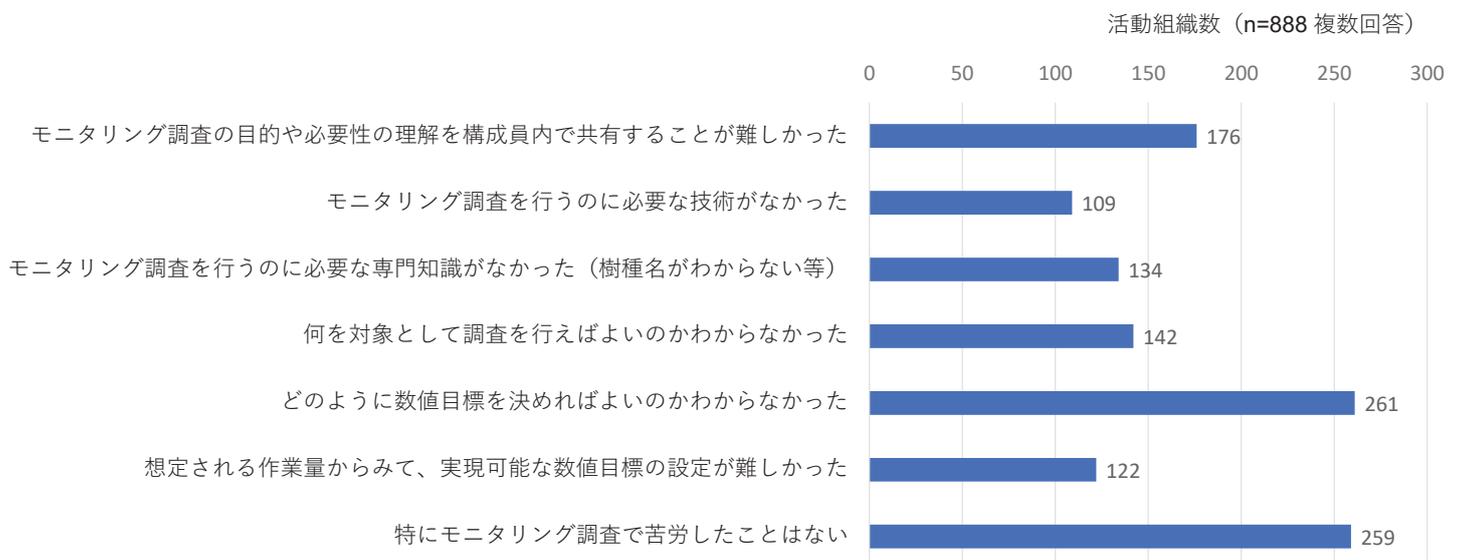


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

23

(8) モニタリング調査

㉒ モニタリング調査に関連して苦労したこと（活動組織向けアンケート）

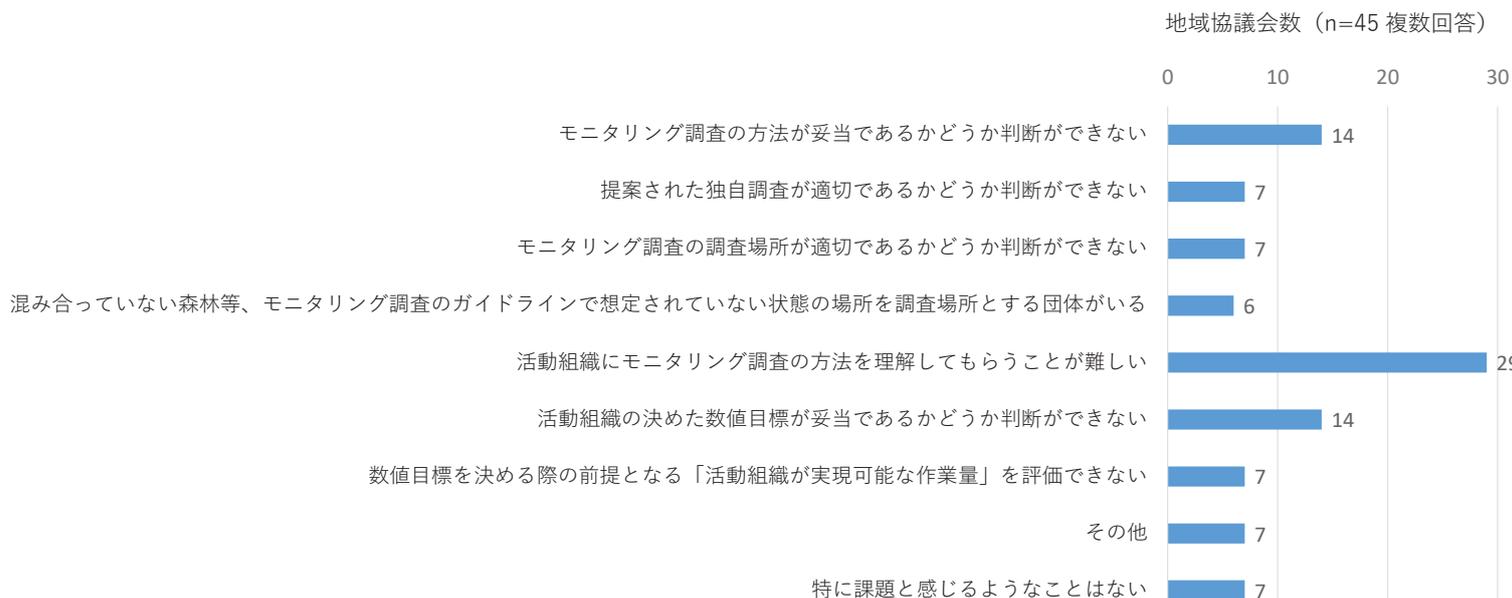


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

24

(8) モニタリング調査

㉓ モニタリング調査に関連して直面した課題（地域協議会向けアンケート）

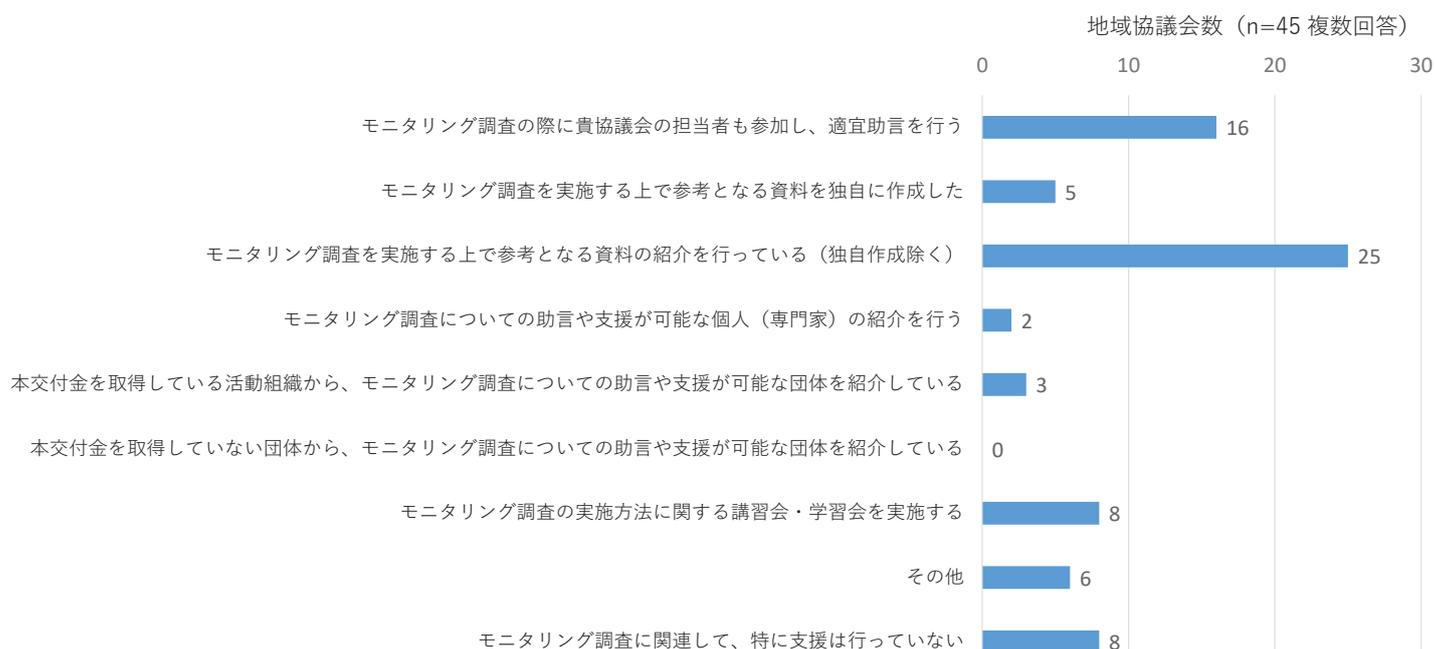


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

25

(8) モニタリング調査

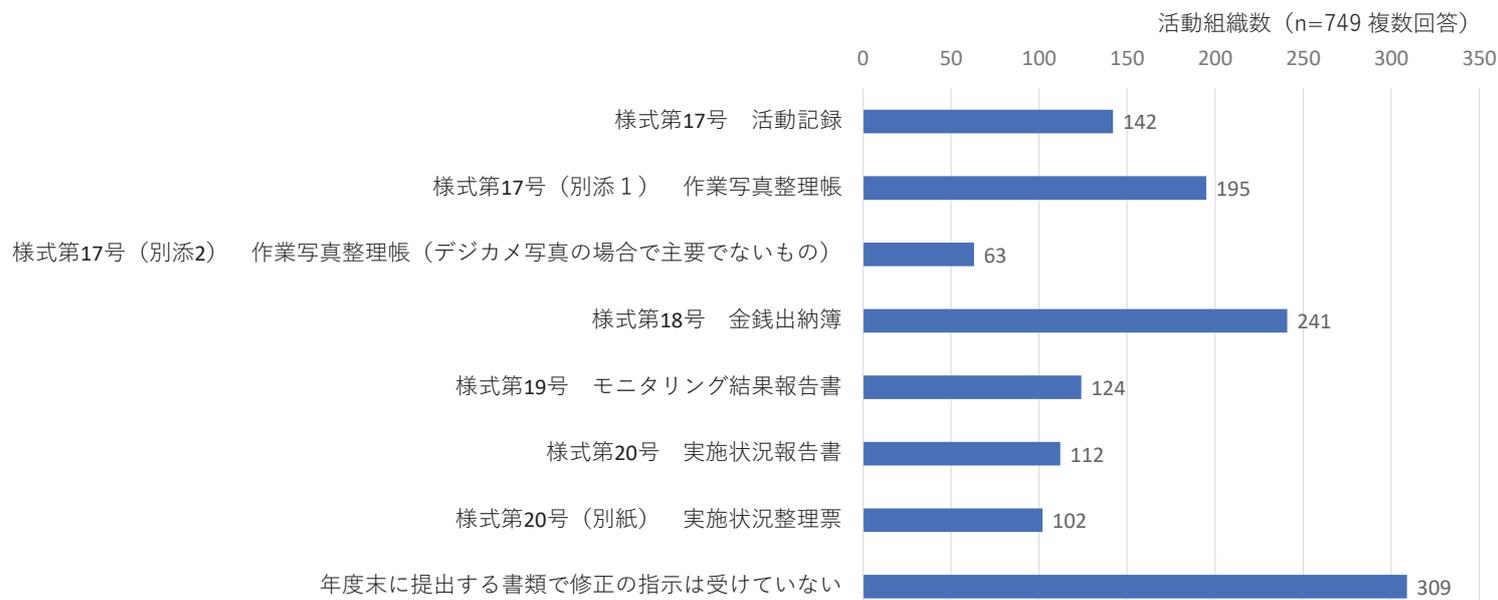
㉔ モニタリング調査を円滑に進めるための支援（地域協議会向けアンケート）



26

(9) 年度末書類作成段階

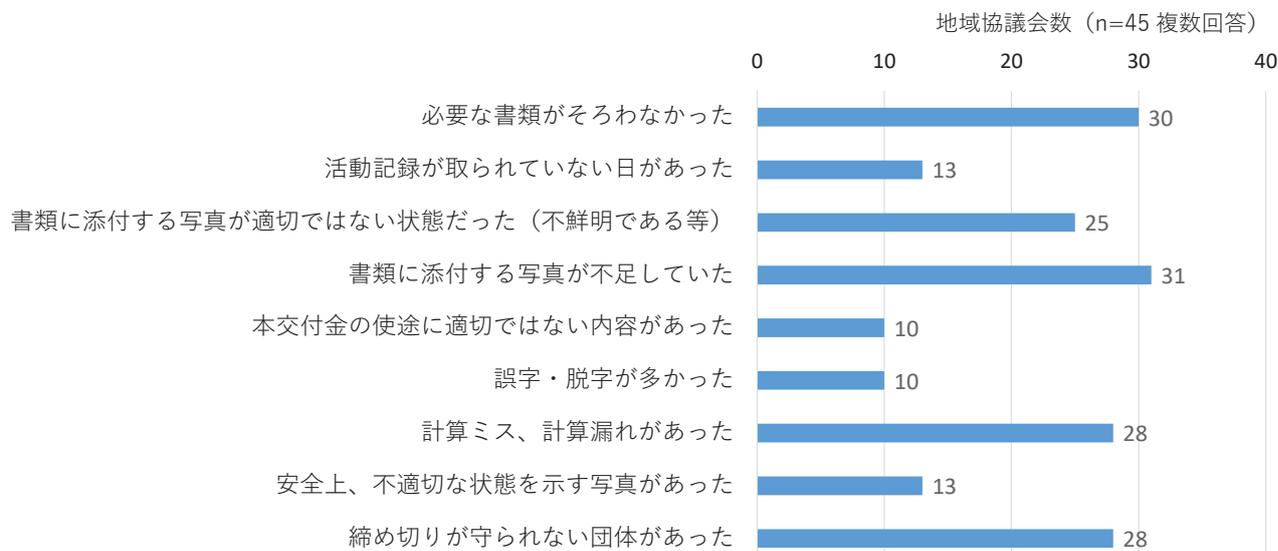
㊸修正の指示を受けた書類（活動組織向けアンケート）



27

(9) 年度末書類作成段階

㊸年度末書類の作成時に生じた課題（地域協議会向けアンケート）

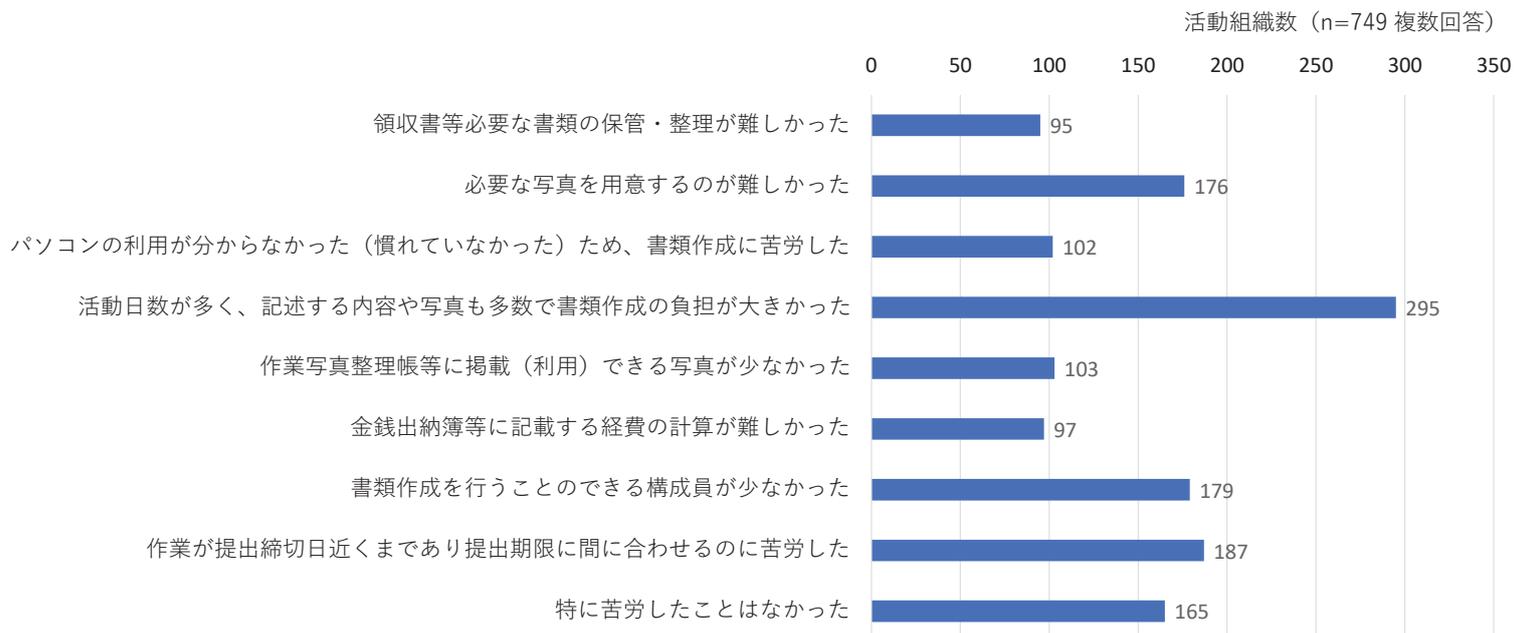


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

28

(9) 年度末書類作成段階

㉗年度末書類の作成で苦労したこと（活動組織向けアンケート）

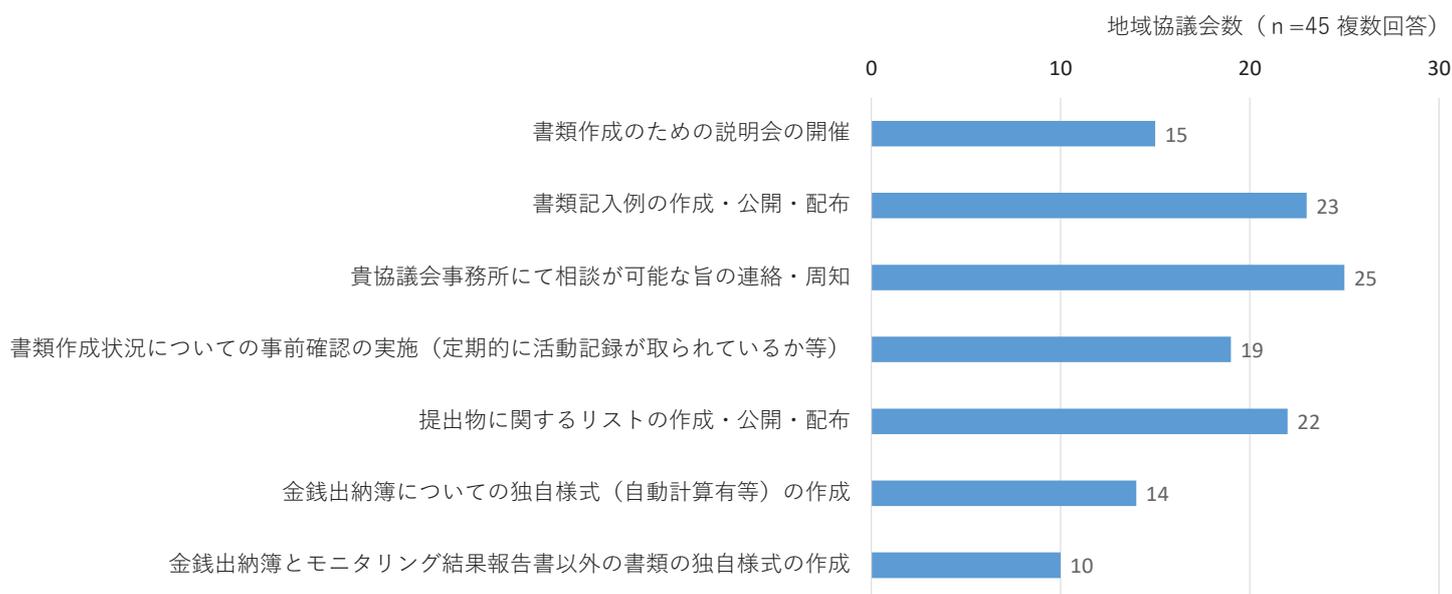


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

29

(9) 年度末書類作成段階

㉘年度末書類に関する支援（地域協議会向けアンケート）



※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

30

(10) その他

㊸活動組織と他団体の協力関係（活動組織向けアンケート）

活動組織数（n=888 複数回答）

協力団体	A 書類作成	B 森林内での活動 (助言)	C 安全講習	D 資機材の貸与	E 広報活動	F モニタリング調査	G その他	H 特に協力関係はない
① 都道府県	163	111	114	25	26	92	19	387
② 市町村	247	117	55	38	80	72	22	331
③ 地域の森林組合等の林業関係団体	106	152	197	40	15	85	18	376
④ NPO、森林ボランティア団体	42	98	82	30	27	39	20	462
⑤ 大学や研究機関（研究者）	5	36	4	2	3	13	10	519

31

(10) その他

㊸地域協議会と他団体の協力関係（地域協議会向けアンケート）

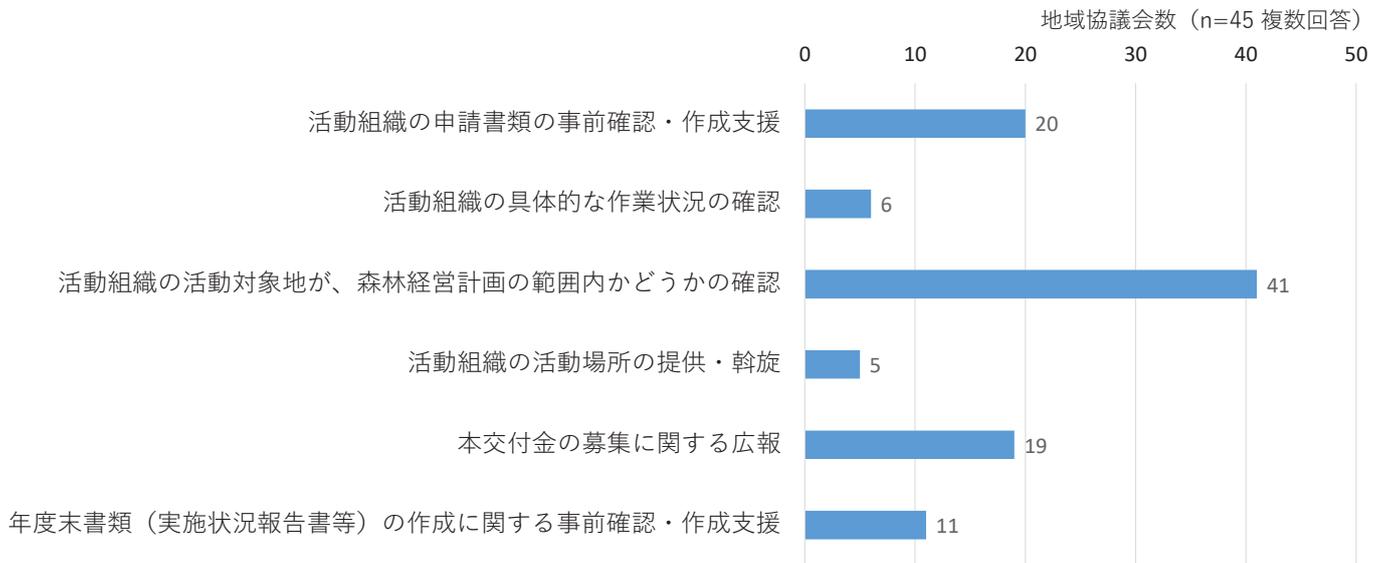
地域協議会数（n=45 複数回答）

協力団体	書類作成の指導	作業や活動についての助言	安全等の講習の実施	資機材の貸与	広報活動	支援 モニタリング調査の	特に協力関係はない
① 都道府県	17	22	13	1	27	7	4
② 別の地域協議会	2	4	0	0	0	0	32
③ 森林組合	2	3	5	1	3	1	28
④ 公益法人、NPO	2	1	3	0	3	0	32
⑤ 大学・研究機関（研究者）	0	0	0	0	1	0	37
⑥ その他	1	2	3	2	1	0	16

32

(10) その他

③1 地域協議会と市町村の協力関係（地域協議会向けアンケート）

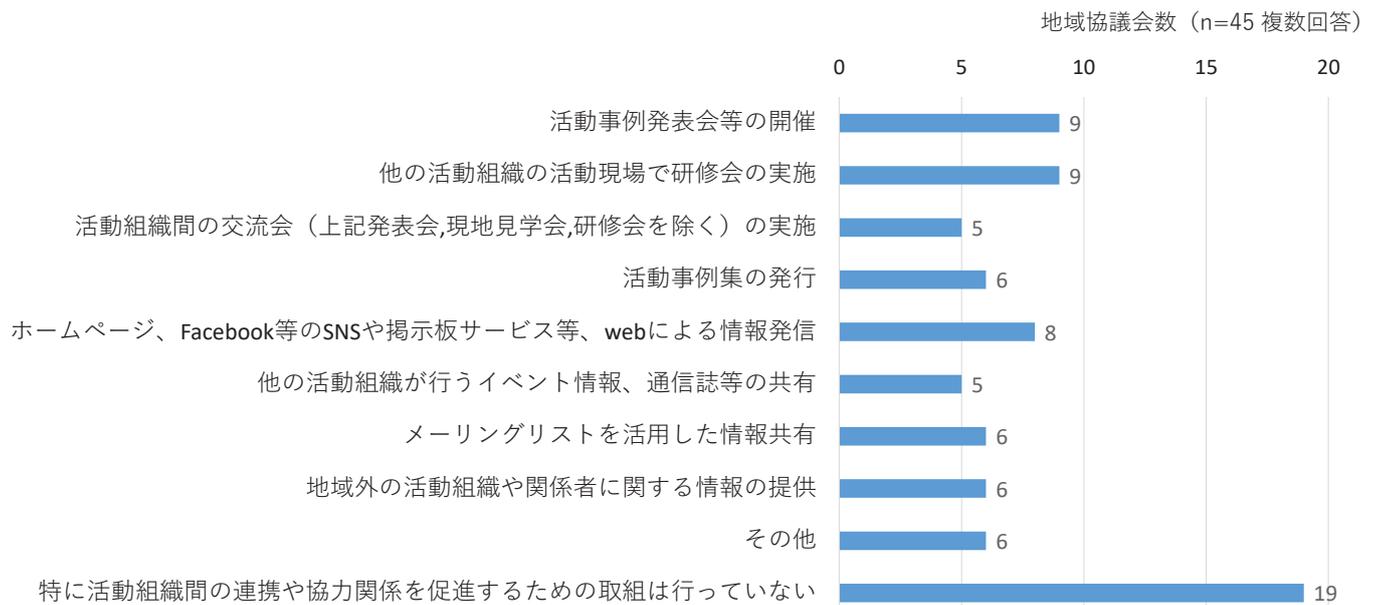


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

33

(10) その他

③2 活動組織の協力関係の促進に向けた支援（地域協議会向けアンケート）

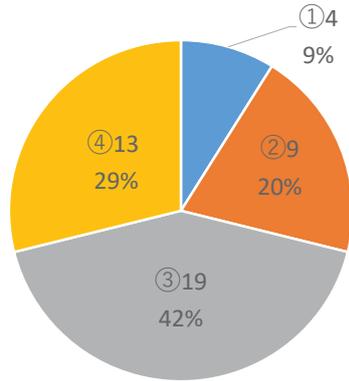


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

34

(10) その他

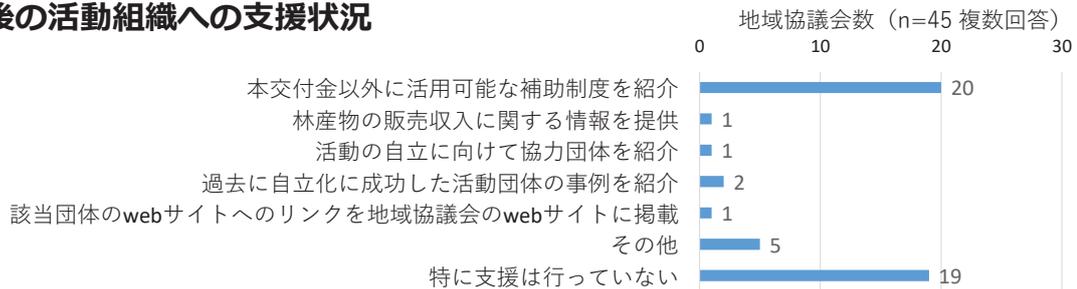
③ 交付金終了後の活動組織の把握状況（地域協議会向けアンケート）



※数字は地域協議会数

- ① 交付金活動終了後の活動組織のほとんどについて活動状況を把握している
- ② 交付金活動終了後の活動組織の半数程度について活動状況を把握している
- ③ 交付金活動終了後の活動組織のうち一部について活動状況を把握している
- ④ 交付金活動終了後の活動組織の活動状況はほとんど把握していない

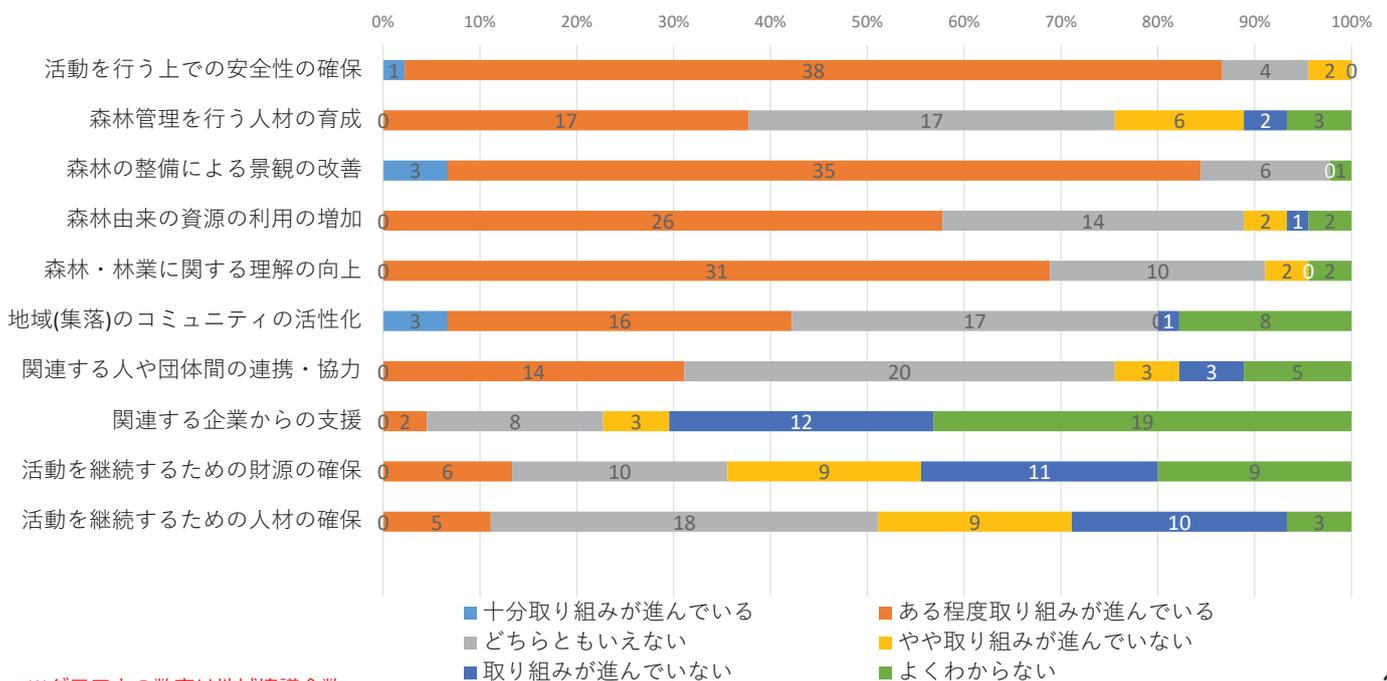
交付金終了後の活動組織への支援状況



35

(11) 本交付金の効果

④ 本交付金の取り組みに関する進展状況（地域協議会向けアンケート）



※グラフ内の数字は地域協議会数

36

モニタリング調査に係るフローチャートについて（補足資料）

モニタリング調査は、それぞれの活動組織が行っている森づくりや森林整備の進捗状況および目標達成度を数値的に把握することを目指すものです。他方、全国の活動組織等より、目指している森づくりや森林整備の評価を行う、モニタリング調査方法の選択が難しいという声があります。

このため、「森林・山村多面的機能発揮対策交付金 モニタリング調査のガイドライン—改訂版—」（以下、「モニタリング調査のガイドライン」）から調査方法を選択する際に参考となるよう、それぞれの目標とする森の姿から「モニタリング調査のガイドライン」で紹介しているモニタリング調査方法のうち活用に適したものを選択できるように、主な作業項目・当面の目標と合わせて、フローチャートに示しました。

本資料についてのご意見、ご要望等ございましたらアンケートの「Q4 その他の送付資料や、本交付金に係るご意見・ご要望」欄にご記入下さい。

森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー等に関するアンケート

例年行われている「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」が開催できないことから、都道府県、地域協議会の皆様に対し、関係資料をお送りさせていただきました。

次年度以降の「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」開催等の参考とするため、以下について2月26日（金）までにご回答いただけますと幸いです。ご返信はEメール、FAX、返信用封筒にてお願いいたします。

【ご所属】 都道府県名： _____
地域協議会名： _____

Q1： 活動事例集をご覧になってのご意見・ご感想、参考となった事例などございましたらお願いします。

Q2： 地域協議会向けアンケートおよび活動組織向けアンケート結果についてご意見・ご感想、また今後のアンケート調査の要望項目などございましたらお願いします。

Q3： 次年度以降に「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」を行う場合、テーマや講演者（お話を伺いたい方）、情報共有・交換を行いたい事項等、ご希望などございましたらお願いします。

Q4： その他の送付資料や、本交付金に係るご意見・ご要望などございましたらお願いします。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

【アンケートご返信先】 Eメール： shinrin2020@ecosys.or.jp
FAX： 03-5951-2974

事務局：(公財)日本生態系協会 小川・亀田